

2017 平成29年度

TOYO UNIVERSITY

東洋



東洋大学雨水会報
Vol.157

目次

キャンパスガイド

赤羽台キャンパス 開設

情報連携学部長 坂村 健……………1

白山キャンパス……………4

川越キャンパス……………5

板倉キャンパス……………6

朝霞キャンパス……………7

平成二十九年 雨水会会長挨拶

東洋大学雨水会会長 阿部雅道……………8

社会連携推進室の設立について

社会連携推進室事務室長 中村厚志……………9

雨水会役員名簿……………10

本部役員・評議員・顧問

新しい時代を拓く東洋大学

学校法人東洋大学理事長 福川伸次……………11

東洋大学の新たな飛躍を目指して

東洋大学学長 竹村牧男……………12

東洋大学における課外活動の支援と充実

学校法人東洋大学常務理事・

雨水会常任理事 大熊廣一……………13

平成二十九年 度「父母懇談会」に参加して

父母懇談会（高知会場）に参加して

東洋大学副学長 高橋 豊美……………14

父母懇談会（広島会場）に参加して

東洋大学副学長 中原 美恵……………15

学部だより

テーマ「学部が取り組む二十一世紀の

人材育成について」

文学部長

経済学部長

経営学部長

法学部長

社会学部長

理工学部長

総合情報学部長

国際学部長

国際観光学部長

生命科学部長

食環境科学部長

ライフデザイン学部長

平成二十九年 度「父母懇談会」を実施して

川越キャンパス父母懇談会を実施して

川越事務部教学課課長補佐 下川大輔……………28

板倉校舎父母懇談会に参加して

板倉事務部部長 吉田 邦子……………29

朝霞校舎父母懇談会に参加して

朝霞事務部朝霞事務課課長 野口清司……………30

赤羽台キャンパス父母懇談会を開催して

赤羽台事務部赤羽台事務課課長 渥美 元康……………31

平成二十九年 度父母懇談会および

支部総会に参加して

東洋大学雨水会副会長 荻野雅彦……………32

学生部の窓口から

奨学金をとりまく状況について

学生部学生支援課課長補佐 吉野 将史……………33

就職関係

就職・キャリア支援部部長 石井健一……………34

納付金（学費等）について

経理部財務課……………35

雨水会活動

平成28年度雨水会活動報告……………36

平成28年度事業報告

平成28年度会計報告

平成29年度雨水会活動計画……………42

平成29年度事業計画

平成29年度予算書

平成29年度父母懇談会・支部総会報告……………46

平成30年度父母懇談会及び

支部総会日程（案）について……………47

平成二十九年度雨水会

「会員の集い・就職フォーラム」を開催して

東洋大学雨水会副会長 奥澤 敬子……………48

学生総合補償制度のご案内

体育後援会だより……………49

体育会強化部の活動予定……………51

東洋大学父母ホットライン

「箱根駅伝で優勝させる会」入会をお願い……………52

雨水会よりのお知らせ

本文中の写真は東洋大学広報課・東洋大学スポーツ新聞編集部・その他提供

「21世紀の大学教育を目指して」

東洋大学情報連携学部 INIAD 学部長 坂村 健

東洋大学情報連携学部—INIAD（イニアド）
が何をしようとしているのかのお話しをさせていただきます
ただきたいと思います。INIADはスタートの
時点で、21世紀の理想的な大学教育を確立するこ
とを目標としています。

連携できる人材

人工知能（AI）とIoT（Internet of
Things）の技術が、これからの世界を大きく変
えようとしています。1990年代に登場したイ
ンターネットで世界は変わりました。特にこの10
年のインターネットとクラウドとマッシュアップ
の力——マッシュアップという言葉は日本語
にはなかなか訳しにくいのですが——既存の機
能を連携させる——というような意味だと思いま
すが、これがビジネスの世界にも影響を与え、その
形を大きく変えてきました。IoTやAIの技術
によってさらにそれが加速するということです。

AI+IoT時代の教育の場

INIADをひと言で説明すると、AIとIoT
の時代のための教育の場であるということです。
ここで必須になるのが、「連携力」です。高
い専門性を持ちながら、チームを作って連携する
ことができる基礎を作る——そのための「情報連
携基礎教育」を、入学してすぐに行います。INI
ADは「文・芸・理融合」を謳っていて、1年

次は全員が同じカリキュラムで学び、2年次から
は四つのコースに分かれます。ここで、いろい
ろなコースの人たちが協力しあって問題解決する
ということを実践するわけです。

しかし、同じ価値観の人たちが集まるだけでは
不十分です。新しい価値を生み出すためには、い
ろいろな価値を持つ人が集まる「多様性ダイバ
シティ」が欠かせません。そこでのセレンディ
ピティがイノベーションを生む鍵になります。セ
レンディピティも日本語に訳しにくいのですが、
偶然の幸運な出会いを活かす——ことです。です
から、学生構成の比率は、日本人と外国からの人
男性と女性、新卒と社会人が、それぞれ1…1と
なるのが理想と考えています。今のところ、外国
からの学生は10数パーセント、女性は30パーセン
トぐらいなのですが、1…1に近づくよう努力し
ているところです。

そしてINIADでは社会人の再教育を重視し
ています。今急速に高まっているAIとIoT技
術。従来の教育だけではついていけません。その
ために企業の方々には、このINIADを再教育
機関と考えていただいて、ぜひ社員の方を学生と
して送り込んでいただきたいと思っています。東
洋大学を創設した井上田了先生も晩年は生涯教育
にとても力を入れていました。井上先生がこの東
洋大学——当時は哲学館と言っていました——
を創立した明治という、近代化の渦中にあつた激

動の時代と同じように、現在はクラウド+AI+
IoT技術による激動の時代を迎えています。こ
れが今、東洋大学にINIADを開学することの
意義です。

INIADのカリキュラム

INIADでのカリキュラムをご紹介しますよ
う（図）。1年生のときにプログラミングとコミュ
ニケーションを学びます。普通ですと大学に来る
とまず一般教養を履修します。大学において一般
教養はとても大切です。自分の専門とまったく関
係がないと思える分野を教養として学ぶことは、
まさに大学においてこそ実践すべきことだと思
います。しかしだからといって、入学したばかりの
1年生のときに教養科目を全部押し込んでしま
って、それから専門分野に進むというのは、どうも
違うのではないかと。やはり高校から進学してき
て、まずは高校とは違うことからスタートさせるべき
です。一般教養は4年間かけて興味を持ったとき
に興味のある分野を履修すべきというのが私の考
えです。

したがって、入学したらまずは、このINI
ADが重視する連携基礎教育——主には、プログ
ラミングとコミュニケーションをしつかり学ん
でもらいます。日本人の場合は英語、英語が話せな
い外国人は日本語を学び、まずはお互いにコミュ
ニケーションを取れるようにします。また、単に
語学力だけではなく、いろいろな実習を通してコミュ
ニケーションする力を育てます。

INIAD HUB1

INIADの校舎は「INIAD（イニアド）
HUB（ハブ）——1（ワン）」とよんでいます。総
床面積19000平米のビルの中に、5000個
のIoTデバイスが取り付けられています。建築

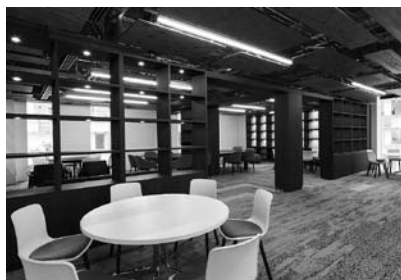
外観設計は隈研吾さんをお願いしました。おかげさまで非常に表情豊かな印象に残る外観になりました（写真）。一方、建築設備やインテリアデザインも含めて、内装は私が担当しました。たとえば椅子ですが、見た目よりも座り心地を優先しています。足も組めるようにして、長時間座っても疲れない工夫をしています。

メディアセンターは従来の図書館に相当する施設です。静かな学習空間だけでなく、コミュニケーションを促す学習空間も提供しています。また、私が以前から実現したいと思っていた紙の本のない図書館にもなっています。紙の本は将来なくなるだろうと思っており、IN IADでは先行的にそのことを実験しています。教室には黒板や白板もなく、すべてプロジェクトに映して授業を進めます。映っている教材はクラウドに入っているから、学生はそれを共有できるようになっています。また学内には紙の掲示板がありません。すべての情報はパソコンやスマートフォンを使って入手できます。また、校舎内の各所にデジタルサイネージ（電子掲示板）が設置されていて、その日時や場所に最適な情報が選択的に表示されるようになっていきます。

IN IADでは、MOOCs（Massive

Open Online Courses）

を使った反転型の教育を重視しています。学生は、授業を受ける前に配信された動画で予習し、小テストを受けておきます。授業は小教室で行われ、教員から予習での理解のフォローアップを受けたあとは、学生同士のディ



メディアセンター



典型的な少人数教室

スカッションがメインになります。IN IADにはMakers（メイカーズ）Hub（ハブ）という施設があります。デジタル工作のための3Dプリンタ、3Dスキャナ、レーザーカッターなどのデジタルファブリケーションのための機材や、ロジックアナライザーやオシロスコープなど、電子工作のための計測機器が完備されていて、学生がアイデアをすばやく形にできる環境が整っています。

IN IAD HUBの校舎は、建物自体がIoTの教材になっています。これを使って教室の部屋の照明を点けたり消したりするプログラミングの演習をしています。プログラムで照明制御APIを呼び出せば、実際に自分がいる教室の電灯を点けたり消したりできます。APIとはコンピュータ同士でやり取りするコマンドで、これが建物全体がIoTの教材であることの意味です。

照明制御APIとオープンになっている音声認識APIを連携させて——つまりマッシュアップして、声で照明を制御するという演習もあります。「照明を消してください」と話しかけると自分がいる部屋の照明を消すことができます。

世界中で公開されているさまざまなAPIをマッシュアップして一つのシステムを作るというスキルは、これからとても重要になります。こうした演習もこの4月から始めていて、すでに音声認識を自分が作ったシステムに組み込むということをやっている学生が出ています。

また、視覚障害の方のためのビル制御のスマホアプリも開発しています。画面を指で上になぞると照明や鍵の状態を音声で教えてくれます。そしてダブルタップすると、照明をON/OFFしたり、扉の鍵を開けたりできます。

このようにIN IAD HUBは、環境すべてがIoTの教材です。そして、プログラムをすれば自らの生活環境を広げることができる——これが、今新入生にいちばん学んでほしい姿勢です。

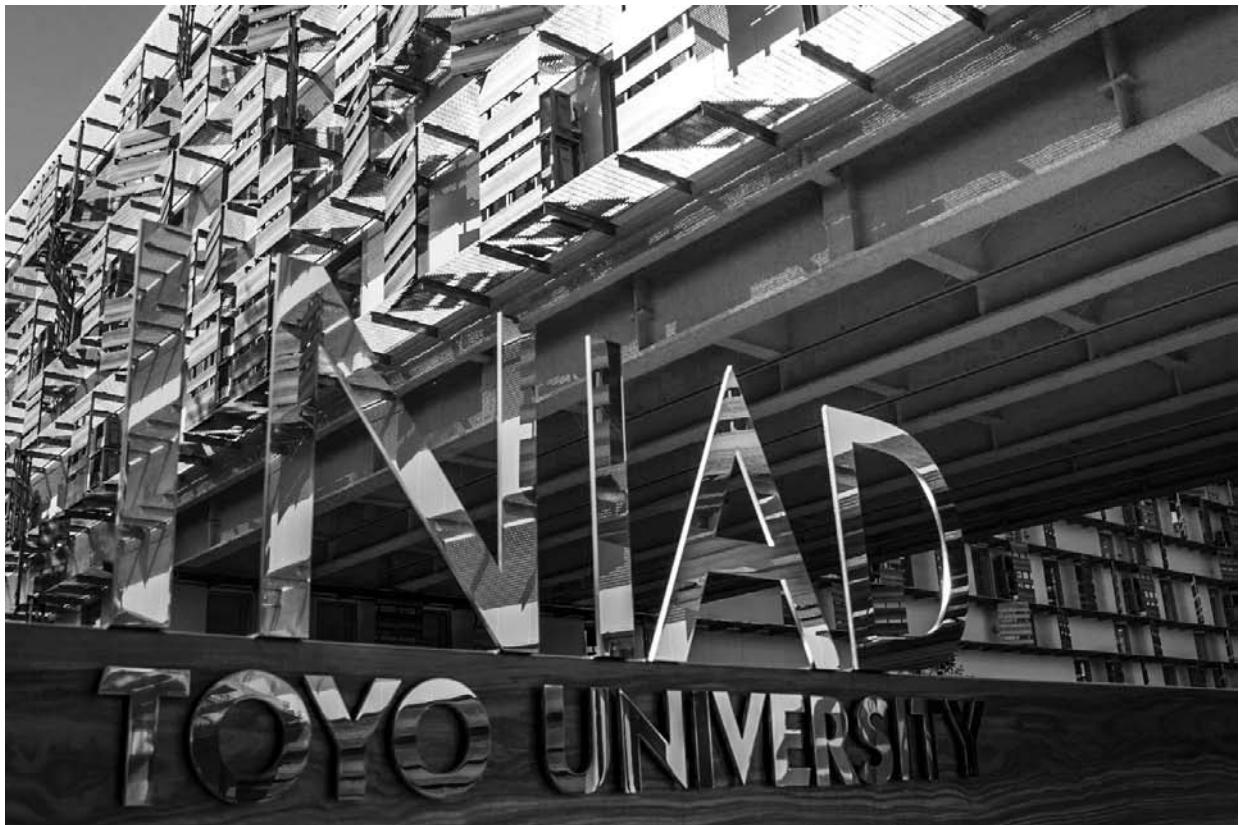
おわりに

私は、TRONプロジェクトという、組み込みコンピュータの世界で38年前から技術情報をすべてフリーでオープンにするということを続けてきました。今や世界は、オープンになった他人の成果を使って自分の成果を出し、それをまたオープンにする——そうしたことを繰り返して発展しています。ですからIN IADの学生には、このIN IAD HUBの校舎を使い倒して、自分たちの成果を世界中にオープンに発信してほしい。IN IADからイノベーションを起こし、IN IADが世界で高い評価を得て、ここで勉強したいという人が増えてほしいと切に願っています。

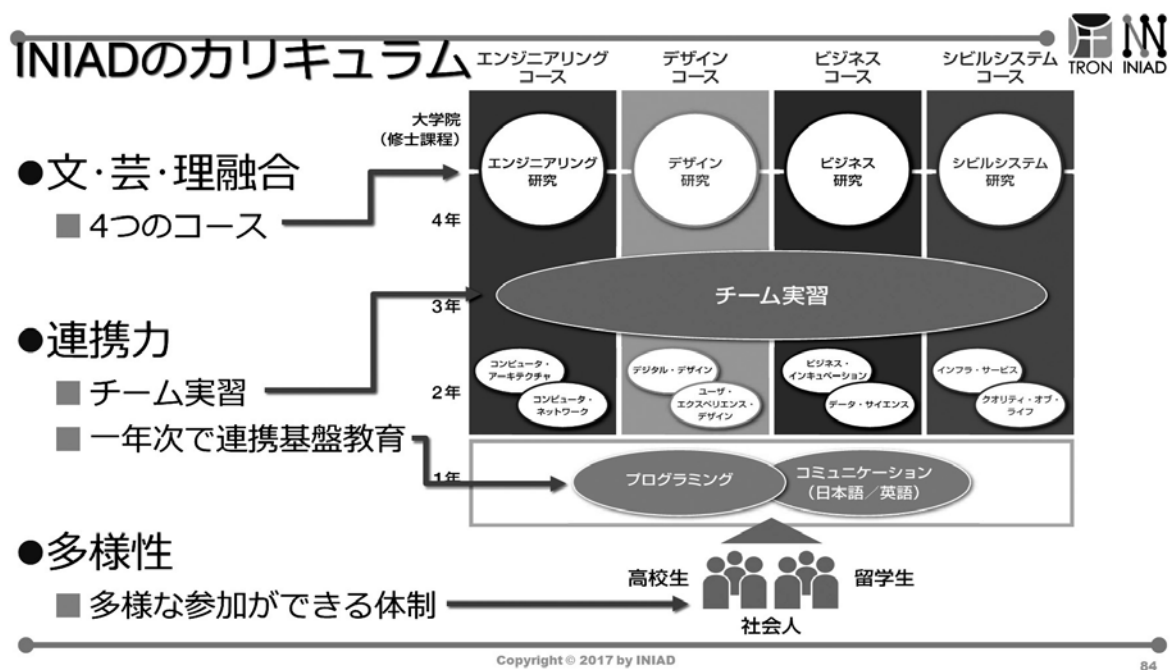


坂村 健

1951年東京生まれ。工学博士。2017年度よりIN IAD（東洋大学情報連携学部）学部長。東京大学名誉教授。専攻はコンピュータ・アーキテクチャ（電脳建築学）。1984年からTRONプロジェクトのリーダーとして、オープンなコンピュータ・アーキテクチャを構築。現在、TRONは携帯電話をはじめとして家電製品、デジタルカメラ、FAX、車のエンジン制御など世界中で多く使われており、IoT（Internet of Things）環境を実現する重要な組込みOSとなっている。2002年1月よりYRPユビキタス・ネットワークング研究所長を兼任。2015年 ITU（国際電気通信連合）創設150周年を記念して、情報通信のイノベーション、促進、発展を通じて、世界中の人々の生活向上に多大な功績のあった世界の6人を表彰する中の一としてITU150 Awardを受賞。IEEEライフ・フェロー、ゴールドメンバー。第33回村学術賞特別賞受賞。2001年武田賞受賞。2003年紫綬褒章。2006年日本学士院賞受賞。



INIAD 外観



白山キャンパス

〒112-8606
東京都文京区白山5-28-20

文・経済・経営・法・社会・
国際地域・国際・国際観光学部
イブニングコース（第2部）
大学院

PHOTO



敷地: 3万5,283㎡ / 校舎: 11万0,291㎡

1887（明治20）年に本郷区龍岡町（現・文京区湯島）の隣祥院で創立し、1897（明治30）年より小石川区原町（現・文京区白山）に校舎を構え、この地とともに歴史を歩んできました。創立100周年を機に、高層集約化による近代的なキャンパスとなり、文理学部・イブニングコース（第2部）・大学院の学生、約22,000名が通学しています。

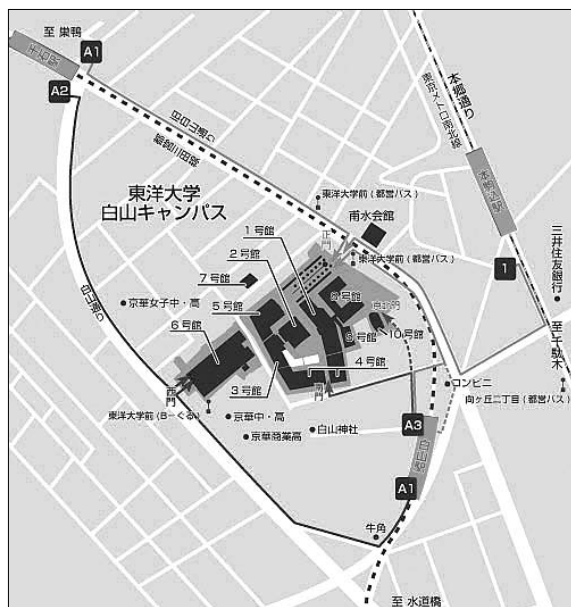
創立者・井上円了博士の立像が見守る「甫水の森」は、地形を活かした緑と水のオープンスペースが評価を受け、2003（平成15）年度に文京区の第3回文の京都市景観賞「景観創造賞」を受賞しました。

5号館は、井上円了ホールと井上円了記念博物館があり、創設者を記念した建物となっております。

6号館は、西門のポケットパークやシンボルツリー（大楠）、屋上緑化が評価され、2005（平成17）年度第5回文の京都市景観賞「景観創造賞」や、2006（平成18）年度東京都環境賞「知事賞」を受賞しました。

創立125周年を迎えた2012（平成24）年に「研究開発」「国際化」「交流・発信」の機能を備えた125周年記念館（8号館、9号館）が完成。2017（平成29）年に10号館が完成しました。タワー型の2号館からは副都心を一望できます。キャンパス内には複数の学食スペースは、メニューも豊富に取り揃えています。

MAP



ACCESS

- JR巣鴨駅から浅草町行バスで10分、東洋大学前下車。
- 都営地下鉄三田線で白山駅下車、徒歩5分。
- 都営地下鉄三田線で千石駅下車、徒歩7分。
- 東京メトロ南北線で本駒込駅下車、徒歩5分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
キャンパス代表	総務課	03-3945-7224

●教務関係

授業・成績等	文学部	03-3945-7595
	経済学部	03-3945-8421
	経営学部	03-3945-7247
	法学部	03-3945-8450
	社会学部	03-3945-8538
	国際観光学部	03-3945-4250
	国際地域学部	03-3945-4250
証明書音声ガイド	大学院	03-3945-7250
	各学部共通	03-3945-7225

●学生生活関係

奨学金	学生支援課	03-3945-7124
サークル活動		03-3945-7262
運動部関係		03-3945-7270
アルバイト・下宿・アパート		03-3945-7268
学生相談室		03-3945-7265
医務室（健康管理）		03-3945-7278

●就職関係

進路・就職相談	就職・キャリア支援部	03-3945-7280
---------	------------	--------------

●国際交流関係

国際交流関係	国際教育センター／国際部	03-3945-7558
--------	--------------	--------------

●納付金関係

納付金（学費等）	財務課	03-3945-7305
寄付金		03-3945-7304

●入試関係

入試関係	入試課	03-3945-7272
------	-----	--------------

●図書関係

図書館	図書事務課	03-3945-7325
-----	-------	--------------

川越キャンパス

〒350-8585
埼玉県川越市鯨井2100

理工学部・総合情報学部
大学院理工学研究科
大学院総合情報学研究科
大学院学際・融合科学研究科

PHOTO



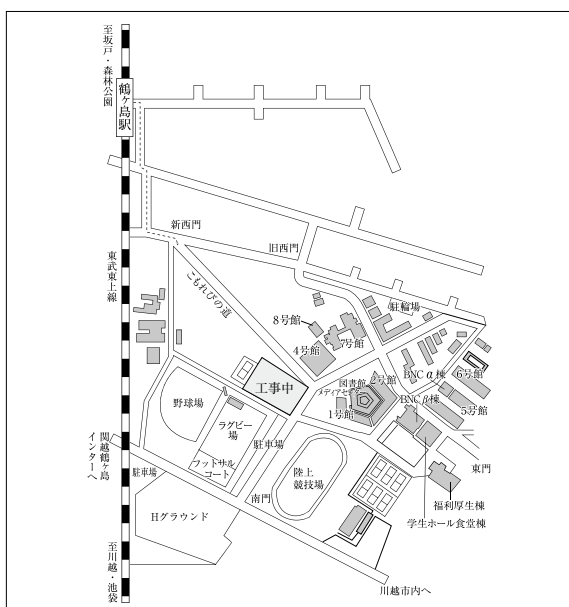
敷地：28万6,981㎡／校舎：7万6,300㎡

川越キャンパスは、1961（昭和36）年に工学部の学生が学ぶキャンパスとして開設されました。現在では理工学部、総合情報学部、大学院に在籍するおよそ5000名の学生が学ぶ場となっております。東京ドーム約6個分という広大な敷地を活かし、「物創り工房」や「バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター」など多くの研究施設を設置しています。数学・物理・英語などの基礎科目に対応した「学習支援室」や留学、海外インターンシップ、語学学習などについて支援する「グローバルコミュニケーションスペース（GCS）」などの学習施設も設置しています。また、部活動、サークル活動も盛んで、川越だけで50以上のサークルが活動しています。

その一方で、陸上競技場やラグビー場、野球場など各種グラウンドを備え、「大越記念庭園」や新西門から始まる「こもれびの森」のような豊かな自然を持つキャンパスでもあります。

その他、川越市と協力して行っている地域連携プログラムや一般の方に参加いただける「オープンカレッジ」、「こもれびの森・里山支援隊」など学外と協働した事業も行っております。

MAP



ACCESS

●池袋駅から東武東上線で急行38分、
鶴ヶ島駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項		取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表		総務課	049-239-1300
●教務関係			
履修・成績・試験・学籍 教職・各種証明書		教 学 課	049-239-1312
●学生生活関係			
奨学金・クラブ・サークル活動		教 学 課	049-239-1314
アルバイト ※		課ナジック・アイサポート	03-5466-1236
下宿・アパート ※		(株)ミニミニ城北	049-228-8832
学生相談室		教 学 課	049-239-1544
医務室（健康管理）			049-239-1317
※川越キャンパスでは業務委託をしております。			
●就職関係			
求人受付		教 学 課	049-239-1641
就職相談			
●学費・入試関係			
学費		総 務 課	049-239-1303
入試関係		教 学 課	049-239-1392
●図書関係			
図書館		川 越 図 書 館	049-239-1321

板倉キャンパス

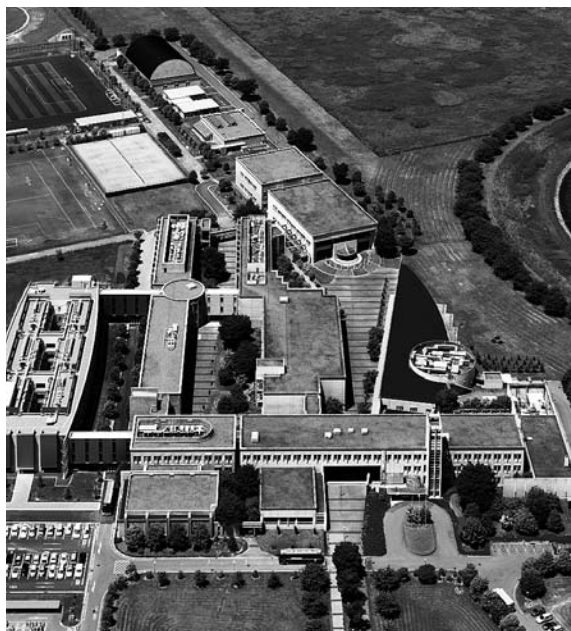
〒374-0193

群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1

生命科学部・食環境科学部

大学院（生命科学研究科・食環境科学研究科）

PHOTO



敷地:11万2,125㎡／校舎: 3万497㎡

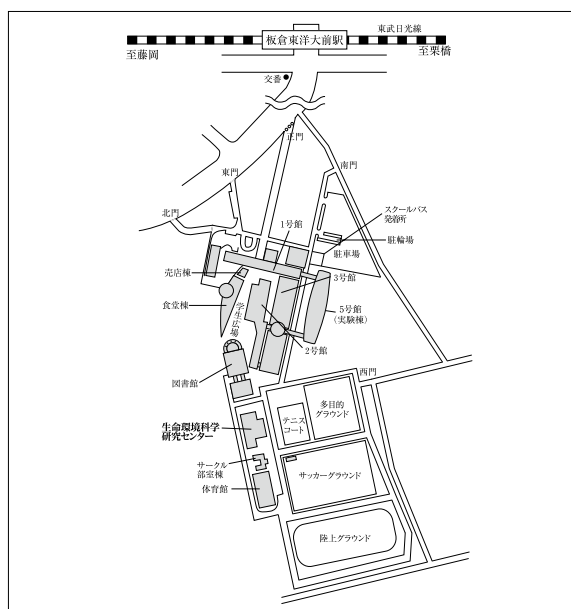
板倉キャンパスは、1997年に群馬県板倉町に創設された生命科学部、食環境科学部、大学院生命科学部、食環境科学研究科の2学部、2研究科を有するキャンパスです。緑豊かで東京ドーム7個分という敷地を持つこのキャンパスで、約2000人の学生が勉学に励んでいます。

キャンパスには、多くの実験設備や学習環境が備えられています。2010年に完成した5号館は、「シーズ（生命の種）」をモチーフとしたガラス張りのモダンな設計となっています。36の実験室、10の共通機器室に最新の実験機器を有しており、多くの学生、教員が研究活動に励んでいます。また、3号館には給食経営管理室等が設置され、管理栄養士を目指す学生が約100人分の大量調理実習を行う事が可能です。

また板倉キャンパスには陸上競技部女子長距離部門、体育会サッカー部女子部の学生が在籍しており、専用グラウンドで日々練習に励んでいます。

更に図書館や体育施設、学生食堂などは、地域の方にも利用していただいているほか、サイエンスカフェ、イルミネーション点灯式など地域の方にご参加いただけるイベントも多く企画しており、地域と密接な関係を築いています。

MAP



ACCESS

- 池袋駅からJR宇都宮線（湘南新宿ライン）、東武日光線で79分。北千住駅から東武スカイツリーライン、東武日光線で63分。
- 板倉東洋大前駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	板倉事務課	0276-82-9111
●教務関係		
生命科学部	板倉事務課	0276-82-9118
食環境科学部		0276-82-9173
大学院		0276-82-9119
●学生生活関係		
奨学金	板倉事務課	0276-82-9046
サークル活動		0276-82-9046
アルバイト		0276-82-9046
学生相談室		0276-82-9132
医務室（健康管理）		0276-82-9123
●就職関係		
求人受付	板倉事務課	0276-82-9172
就職相談		0276-82-9172
●国際交流関係		
海外留学	板倉事務課	0276-82-9171
●学費等関係		
学費	板倉事務課	0276-82-9119
●入試関係		
学部入試	板倉事務課	0276-82-9109
大学院入試		0276-82-9119
●図書関係		
図書館	図書事務課（板倉）	0276-82-9060

朝霞キャンパス

〒351-8510
埼玉県朝霞市岡48- 1

ライフデザイン学部

PHOTO



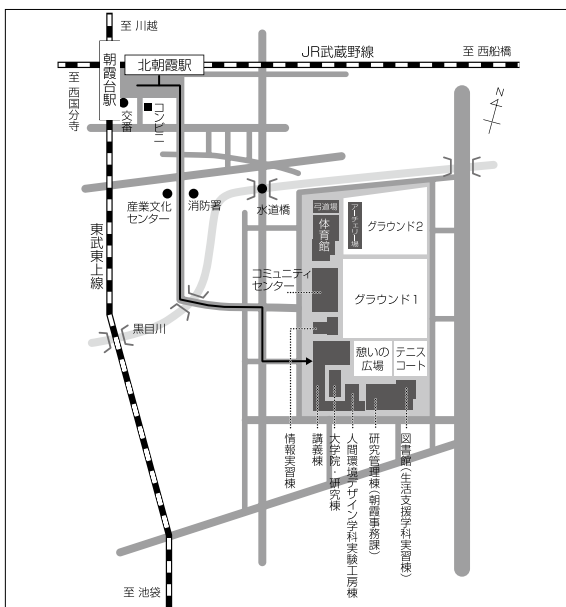
敷地: 6万9,774㎡ / 校舎: 3万2,797㎡

朝霞キャンパスは、池袋からわずか18分の東京都心に近い埼玉県南部の武蔵野の自然が多く残る朝霞市の東武東上線朝霞台駅とJR武蔵野線北朝霞駅より徒歩10分のところにあります。キャンパスのすぐ近くを流れる黒目川は朝霞市の桜の名所であり、花祭りや人々の憩いの場所となっております。

朝霞キャンパスで学ぶライフデザイン学部は、諸資格取得のための実習授業が多いことも特徴の一つです。そのため、キャンパス内には、多様な授業目的のための実習設備が完備され、より実践的な知識や技術を学ぶことができます。例えば、介助技術の授業のための介護実習室、入浴実習室、調理実習室などや、保育士、幼稚園教諭の授業のための保育実習室、音楽実習室、ピアノ練習室などがあります。テニスコート、サッカー・アメフト競技用の人工芝グラウンド、ソフトボール場、体育館にはアリーナのほか、トレーニング機器を設置しているトレーニング場があり、これらの体育施設は授業のためだけでなく、学生の課外活動などでも広く利用されています。また、デザインや制作などの授業や演習で使用する実験工房には各種演習用の工作機械室や学生がいつでも作業できるアトリエスペースが設置されており、学生がものづくりに専念できる環境を備えています。

その他、大型絵本のある図書館や学生の課外活動のためのコミュニティセンターなどがあります。キャンパスの中央には木々に囲まれた憩いの広場があり、休み時間や空き時間には友人とおしゃべりをしたり、軽く体を動かしたりする学生が多く見られます。

MAP



ACCESS

- 池袋駅から東武東上線で急行15分、朝霞台駅下車、徒歩10分。
- JR武蔵野線北朝霞駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	朝霞事務課	048-468-6311
●教務関係		
履修・成績・試験 学籍・証明書	朝霞事務課	048-468-6451
●学生生活関係		
サークル活動	朝霞事務課	048-468-6461
奨学金		048-468-6457
学生相談室		048-468-6462
医務室（健康管理）		048-468-6607
●キャリア形成支援関係		
キャリア形成支援（就職）	朝霞事務課	048-468-6408
●学費等関係		
学費	朝霞事務課	048-468-6321
●入試関係（ライフデザイン学部）		
入試	朝霞事務課	048-468-6457
●図書関係		
図書館	図書事務課	048-468-6331

事務局へご質問・ご相談等ありましたら、ご遠慮なく各キャンパスのテレホンガイドによりお尋ねください。担当部課室の電話は、すべて直通になっております。

〈お電話受付時間〉
平日 9:30~12:45、14:15~16:45
土曜 9:30~12:45

なお、電話の場合は、必ずご自分の姓名と「学生の学科・学籍番号・名前」を申し出てください。申し出のない場合は、お断りする場合もございます。また、内容によってはお電話ではお答えしかねる場合がございますことを合わせてご了承ください。



平成二十九年 甫水会会長挨拶

東洋大学甫水会会長 阿部 雅道

皆さま、こんにちは。甫水会会長の阿部雅道です。会員の皆様におかれましては、日頃より甫水会の活動に対しましてご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

東洋大学甫水会は東洋大学唯一の父母の会として設立され、来年1月に設立59年を迎えます。学祖井上円了先生の雅号をいただき甫水会と名称を改めてからは23年目となりました。全国に56支部、2万6千人余りの会員により構成されている歴史ある組織です。その重みを受け止め、有意義な活動を推進するために役員一同全力で取り組んでまいります。

さて、甫水会は3年前より事業内容を大きく見直しをいたしました。当初設立時の事業目的に加える形で大学とより密接に連携し大学事業へ協力する観点から大学との「協働」を新たなキーワードとして打ち出し、様々な局面において大学と連携した事業展開を進めてまいりました。例えば全国各地で大学主催により開催される父母懇談会では大学の教職員の方々とともに甫水会本部・各支部の役員が運営面での支援を行い一体感の醸成に努めています。一方、甫水会主催で開催される「会員の集い、就職フォーラム」では大学の社会連携推進室、就職キャリア支援課の協力も仰ぎながら

その内容の充実に努めてまいりました。学部行事、キャンパス毎のイベントへの協賛や文化部発表会への支援・運動部の試合の応援等にも従前にもまして関与の機会を増やし、大学・学生との接点の拡大と内容の深化に努めているところです。

これらの活動を通じて会員の皆様の総意として学生活動の活性化とその成長を幅広くサポートすることに努めてまいりました。甫水会の存在意義の柱として今後もその内容の充実に努めていきたいと考えております。

また近年は学校法人の経営にあたられる理事長、教員を代表される学長との定期的な面談の場を設けていただき、直接の話し合いを通じ互いの価値観や目的意識の共有を図ることにもしっかり取り組んでいます。より高いレベルで会としての立ち位置を確認し今後の方向性を確かなものにしていきたいと考えています。

前述のスポーツ応援に関しましてはご存知の通り、近年の東洋大学のスポーツ界はめざましい実績を上げてきています。東洋大学の誇りを胸に全国大会で優勝を競い、または日本代表として世界レベルで活躍する選手・チームもいます。甫水会としても日頃より彼らの不断の努力や試練を見守って参りましたので殊更にその努力が結実して

いることに大きな喜びを感じています。また彼らと同じ時代に同じ学び舎で机を並べていることは学生や会員の皆様にとっても誇らしい、良い思い出となったのではないのでしょうか。選手の皆さん、監督・コーチならびに関係者の皆様にも深く感謝申し上げ健闘を称えますとともに今後も応援していきたいと考えています。

会員の皆様のもう一つの関心事として学生の卒業後の進路があると存じます。就職戦線ではここ数年「売り手市場」と報じられてはいますが企業の採用姿勢の変化・多様化等により昨年のケースが通用せず学生が戸惑うことも多いようです。東洋大学では他大学にまさる充実したサポートを実施していますのでぜひその仕組みを活用されることをお勧めします。また甫水会では前述の「就職フォーラム」に加え「就職説明会」等を支部単位で開催し最新の情報やアドバイスの提供に努めています。学生達が自信をもって乗り切ってくれることを祈念しています。

東洋大学では今年4月に新学部を設置し赤羽台に新たなキャンパスを開設しました。年々志願者が増加し注目度も高まっています。その中で大学が進めるイノベーションが更に高度化し質の高い教育環境が整っていくことが期待されます。私達もその力強い歩みに共鳴・協働し活動を進化させてまいります。

今後も甫水会は学生が充実した学生生活を送れるよう一層の活動の充実を目指してまいります。最後になりましたが、みなさまの益々のご健勝を心よりよりお祈り申し上げます。引き続きご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

社会連携推進室の設立について

東洋大学 社会連携推進室 事務室長 中村 厚志

浦水会会員各位におかれましては、父母懇談会の実施協力のほか、大学祭等の全学行事と学生の文化体育活動に対する援助、顕著な活動をした公認サークルに対する表彰、修学困窮学生への奨学金の給付、教育・研究協力資金への寄付等、浦水会本部を中心に積極的なご支援とご協力をいただいております。今年度はさらに、経済的困窮学生に対するビジネススーツ購入援助及び大学コミュニケーションションマーク入り就職活動グッズの作成配布といった就職支援、本学食育指導事業に対する寄付、外国人留学生と日本人学生のコミュニケーションイベント実施支援など、肌理の細かいご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

今年4月より東洋大学卒業生各位及び浦水会会員各位と東洋大学との連携を促進して、在校生に対する支援の充実を図るべく設置されていた「卒業生・浦水会連携推進室」の名称を「社会連携推進室」にリニューアルし、さらなる在校生支援の拡充を図るべく、「卒業生・浦水会連携推進課」と「募金課」の2課制に改組いたしました。

「卒業生・浦水会連携推進課」は、「卒業生・浦

水会連携推進室」の業務をそのまま引き継ぐ形で、父母懇談会を実施するとともにガイドブックやビジュアルツールの作成を通じて、本学の取組みや在校生の具体的な修学環境についてご紹介説明するほか、浦水会本部実施の就職フォーラムや支部実施の就職講演会などのイベントにおける講師派遣の調整、浦水会と校友会等の卒業生団体との連携の調整を行い、浦水会の本部運営および支部活動のサポートを行っています。

また、就職、学生生活の安心確保、留学などの国際化対応を中心とした大学からの体制整備のニーズをお伝えして、浦水会各位から在校生に対するご支援が有効に活用できるよう調整および提案を行っています。

新設の「募金課」は、卒業生、父母保証人を含む幅広い方々から、在校生の海外留学及び研修、課外講座、インターシップ参加など経済的負担軽減のほか、大学院生の研究支援、硬式野球部・陸上競技部・相撲部等の強化指定運動部の支援、社会貢献・ボランティア支援・被災学生支援等につながりますよう募金体制の整備充実を行っております。

ります。

昨年12月より、寄付申込みのクレジットカード決裁、コンビニエンスストア決裁を可能にしたほか、今年10月より書籍（CD、DVD等含む）のご提供をもとに販売代金を寄付金として受入れる古本募金を開始いたしました。

さらに次年度に向けて、在校生の活躍と本学の取組みをできるだけ分りやすくお知らせできるように体制を整備するとともに、ご寄付いただく方のご意向に沿った形でご支援をいただけるよう、学部・大学院研究科別、強化運動部別等に用途を指定できる「用途指定型」の寄付受入体制の確保を図ります。

本学が掲げるグローバル・イノベーションを展開する人材の育成を推進するためには、ご父母保証人、卒業生、企業・法人などの皆様の本学に対する連携協力体制を確保して、オール東洋にて在校生の支援を行うことが望まれます。

浦水会会員各位におかれましては、今後とも社会連携推進室の取組みにご注目いただき、東洋大学と在校生に対しましてご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

南水会役員名簿

平成二十九年本部役員

役職名	氏名	支部名
会長	阿部 雅道	埼 南
副会長	荻野 雅彦	埼 北
副会長	奥澤 敬子	栃 木
常任理事	大熊 廣一	大学推薦
常任理事	砂賀 栄次	埼 東
常任理事	櫻井 昌代	埼 中
常任理事	峯松 益幹	神 奈 川
常任理事	小田 直子	千 葉 東
常任理事	竹内 夕美子	多 摩
監事	松崎 すぐ代	城 北
監事	加門 由章	茨 城
理事・地区長(北海道)	野原 清美	札幌・函館
理事・地区長(東北)	工藤 浩統	岩 手
理事・地区長(関東)	八木 原明子	埼 北
理事・地区長(甲信越)	井戸 修一	山 梨
理事・地区長(北陸)	北川 照文	石川・福井
理事・地区長(東海)	杉山 貴美代	愛 知
理事・地区長(近畿)	中井 成郷	兵 庫
理事・地区長(中国)	広林 真理子	山 口
理事・地区長(四国)	西岡 美都	高 知
理事・地区長(九州)	下地 紀靖	沖 縄

評議員(支部長)

会則第20条2項(支部長)

氏名	支部名
野原 清美	札幌・函館
小熊 香都子	旭 川
因 洋史	北 見
出口 垂矢子	室 蘭
柴田 裕嗣	釧 路
齊藤 茂彦	青 森
工藤 浩統	岩 手
渡邊 高志	宮 城
猿田 正幸	秋 田
横山 貴洋	山 形
押部 秀隆	福 島
貝塚 厚	茨 城
荻原 秀之	栃 木
田部 井理賀	群 馬
八木 原明子	埼 北
坂本 太一	埼 中
岩崎 明美	埼 東
野口 信昭	埼 南
橋本 吉浩	千 葉 東
濱野 一美	千 葉 西
関根 佐知	城 東
堀 法子	城 西
後藤 康恵	中 央
芝崎 善治	城 北
西山 博行	多 摩

氏名	支部名
草間 一昭	神 奈 川
井口 敏明	新 潟
井戸 修一	山 梨
竹内 浩之	長 野
瀬川 栄司	富 山
北川 照文	石川・福井
野崎 睦晴	岐 阜
岡本 美香	静 岡
杉山 貴美代	愛 知
小林 ふゆ	三 重
岡田 典子	京 都・滋 賀
中塚 容子	阪 奈
中井 成郷	兵 庫
山本 佳之	和 歌 山
田中 聖子	鳥 取
福島 昇	島 根
池田 裕子	岡 山
渡 鉄志	広 島
広林 真理子	山 口
清家 卓也	徳 島
高橋 一志	香 川
京河 一臣	愛 媛
西岡 美都	高 知
中山 直樹	福 岡
橋口 直紹	佐 賀

会則第20条2項
(1000名を超える支部)

氏名	支部名
高橋 俊充	長 崎
浜田 洋至	熊 本
櫻井 武彦	大 分
松本 武士	宮 崎
満塩 利昭	鹿 児 島
下地 紀靖	沖 縄

氏名	支部名
鹿兒山 隆	茨 城
の場 眞理	埼 中
篠田 恵美子	埼 東
織茂 邦子	埼 南
古米 博文	千 葉 東
深海 洋子	千 葉 西
田口 智子	城 東
磯永 聖次	城 北
大角 勝紀	多 摩
柳田 明彦	神 奈 川

顧問

氏名	支部名
唐木 重典	中 央

(平成29年11月末日作成)



新しい時代を拓く東洋大学

学校法人東洋大学 理事長 福川 伸次

東洋大学甫水会会員の皆様には、日頃から東洋大学の発展に暖かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

東京オリンピック、パラリンピックが約3年後に迫ってきました。最近東洋大学のスポーツ選手が素晴らしい活躍をみせ、社会の耳目を集めています。

とりわけ、桐生祥秀選手は、9月9日福井運動公園陸上競技場で日本人で初めて100メートル競技で10秒の壁を破り9秒98を記録しました。新聞の号外が出る程の高い関心を呼び、広く社会から賞賛されました。水泳では大橋悠依選手が日本学生選手権水泳競技大会で素晴らしい活躍をされました。オリンピックなどで本学のスポーツ選手の活躍に期待が高まります。

そのほか相撲、女子駅伝、女子サッカーなども目覚ましい成績をあげています。正月には伝統ある箱根駅伝が予定されており、夢がふくらみます。

2020年のオリンピック、パラリンピックが終了すると日本経済が成長のモメンタムを失うのではないかと懸念が生じております。本学でもそれを視野に「Beyond2020」という長期計画を策定し、グローバルゼーション、イノベーション、創造力及び人間価値をキーワードに改革指針と計画を世に問いました。

英国ではポスト・ロンドンオリンピックの成長のリード役を文化芸術に期待する計画を作成しました。本学でもこれらを視野に入れながらオリンピック、パラリンピックの成功のための研究、その後の成長のための戦略立案の研究を進めていきます。

東洋大学は2014年9月「TOYO GLOBAL DIALOGUE構想」が文部科学省のスーパードグローバル大学創成支援に採択されました。これに基づき国際地域学部を母体として再編成した国際学部が2017年度にスタートしました。その中にグローバル・イノベーション学科と国際地域学科を設け、世界の舞台で、或いは国際地域で活躍するニューリーダーと中核人材を育成する改革に取り組んでいます。

また、海外の日本観光への関心の高まりや2020年のオリンピック、パラリンピックの開催を契機に国際観光事業の成長が期待されることから、国際地域学部国際観光学科を国際観光学部として独立充実させました。同時に全学にわたってグローバル教育を充実強化してまいります。

最近の情報通信技術は目覚しく、海外ではビッグデータやクラウド技術が進歩を遂げ、イノベーションの展開に有力な手段を与えています。こうした先端技術は、グローバルゼーションの定着に

も十分な基礎を与えるものでもあります。そこで、東洋大学としては、同じく2017年度に情報連携学部を赤羽の新キャンパスに設置し、その新しい教育の展開は各方面から多くの関心と呼んできます。

こうした二連の改革は必ず成功させなければなりません。甫水会会員の皆様のご支援を心からお願いするものであります。

我々が挑戦しようとしているグローバル教育の展開や情報連携学部の推進には、オープン・イノベーションの発想と手法を取り入れることが必要であります。内外の先進的な知と経験と人材を幅広く取り入れ、最高水準の教育と研究を実現したいからであります。

本学創立者の井上円了博士は、哲学研究はもとより日本社会の特質の分析に骨身を削るとともに、広く世界の動きに関心を抱き、生涯で3回にわたって世界を旅しています。そして国際化が進めば進むほどその新たな創造、発信が必要であることを強調し、学力のみならず、人物とともに養成するという考えを説いています。東洋大学のグローバル化とイノベーション推進に向けた改革は、日本の将来を左右すると言っても過言ではありません。

東洋大学をめぐる環境は、18歳人口の減少、激化する大学間競争などで今後さらに厳しいものになると考えております。我々は、役員、教員、職員を通じて危機意識を共有しつつ、新しい時代の要請を取り入れ、本学の未来を拓こうと考えております。

甫水会会員の皆様が本学の発展にご支援とご協力を賜りますようお願いして、私のご挨拶とさせていただきます。



東洋大学の新たな飛躍を 目指して

東洋大学 学長 竹村 牧男

東洋大学は今年（平成二九年）、創立一三〇周年を迎えました。新年度には、赤羽台キャンパスが開設され、情報連携学部が発足しました。白山キャンパスでは、国際学部と国際観光学部が改組により新設され、特に国際学部にはすべての授業が英語により行われるグローバル・イノベーション学科が設置されています。こうして、現在の東洋大学は、五つのキャンパスに二三学部、一四研究科、学生数がおよそ三万二千人という、文字通り大規模な総合大学に成長しています。これも皆様方のご支援・ご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

ここ数年、平成二六年（二〇一四年）に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援に採択されたTOYO GLOBAL DIAMONDS構想の、着実な実行に努めてきました。これは、大学の運営のあり方を世界標準のものとし、グローバル人材の育成を最大の目標に、研究力ともども国際的に高く評価される大学となつて、日本社会そのものの国際化を牽引することを目的とするものです。お蔭さまで、語学以外の科目における英語による授業はほぼ一〇パーセントに達し、海外の大学の協定校の開拓も急速に進み、留学生の受入れも大幅に増えてきて、キャンパスの国際化は着実に進展しています。研修、インターシップ、留学等で海外に出る学生

も、ひと頃よりはかなり増えていますが、それには学部主催の海外研修等が多く行われるようになってきたことも一因でしょう。短期でも長期でも、海外に出たいという学生を後押しするために、他大学にはないような充実した海外留学促進奨学金制度を設けておりますので、多くの学生にこの奨学金を活用していただきたいと思っています。

私は、本学の当面の目標として、

- ① 建学の精神をふまえ、時代の課題を見据えて、大学としての社会的使命を全うする。
- ② 世界標準の運営に基づき、質の高い教育研究を行い、国際的に高く評価される大学になる。
- ③ 学生が在学中に、学力・人間力双方とも際立つて成長できる環境を実現する。

ということを掲げていますが、特に③の確実な実現のために、今後も全力を注いで参る所存です。そのためには、本学の建学の精神および各学部・学科等の人材養成の目的教育目標に基づく、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れ方針（アドミSSION・ポリシー）を起点としたPDCAサイクル（計画・実行・点検・改善）を実行することが肝要であり、この内部質保証システムを確立して、教育活動のさらなる高度化を実

現して参る所存です。

学校法人東洋大学では、昨年（平成二八年）、「Beyond2020」という中長期ビジョンを公表しました。その背景に、「地球社会におけるリスクの高まり、日本の国力・大学力の低下、といった危機的状況」の認識があり、これらを克服する、国際的にも高く評価される大学を実現するためのビジョンです。全体のタイトルを、「地球社会の未来を拓く、知的イノベーション拠点の確立」とし、そのキーワードとしては、国際化（Globalization）、イノベーション（Innovation）、創造力（Creativity）、人間価値（Human Value）の四つを据えています。さらにアクションプランとして、

- ① イノベーションⅡ社会に新たなイノベーションを巻き起こす大学へ進化する。
 - ② 教育Ⅱ哲学することを教育の基本とし、幅広い教養と専門能力を培い、自立性ある豊かな人格の形成を行う。
 - ③ 研究Ⅱ日本、アジア、グローバル研究を推進し、世界水準の研究力を持つ。
 - ④ 国際化Ⅱ世界で通用するグローバル大学へ変革し、世界ランキングの上位を目指す。
 - ⑤ 運営Ⅱチーム東洋の総合力を発揮する。
- という、高い目標を掲げています。このビジョンに沿う大学が実現すれば、東洋大学は本当に世界に冠たる大学になることができるでしょう。
- こうした崇高な目標を胸に、教職員一丸となって本学のさらなる向上と発展に全力を注いでまいりますので、保護者の皆様方には今後とも、ご支援・ご協力賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



東洋大学における 課外活動の支援と充実

学校法人東洋大学常務理事・浦水会常任理事 大熊 廣一

浦水会会員の皆様には、日頃から東洋大学の発展にご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、東洋大学地区別父母懇談会では各支部の役員を始めとする会員皆様方のご支援、ご協力のもと無事終了することができました。改めて浦水会の皆様方に感謝申し上げますとともに、各支部のご父母等の皆様からの貴重なご意見を大学運営に反映させて参りたいと思います。

本学は、教育・研究においては、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業の採択を受け、新たな価値を創造する「グローバル人材」の育成、国際化を推進する新学部を設置など大学改革を行っています。Times Higher Educationの世界大学ランキングでは1001+に位置付けられました。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け国産カヌー開発のプロジェクトをスタートさせ、「水走(MITSUHA)」と名づけられた船艇は、スラローム種目用に開発され、日本人選手にとって操作性がよく、流体力学に則った設計とバイオミメティクスを取り入れ生物の機能を設計に生かした船艇で、水流を味方につけるよう船底の形状に工夫が施されています。

課外活動においては恒例の箱根駅伝を初め、100mで日本人初の9秒台(9秒98)を出した

桐生祥秀選手、第17回世界水泳選手権大会女子200m個人メドレー銀メダルの大橋悠依選手など、多くの学生選手が活躍しています。このような運動選手たちは体育会加盟サークルに所属しています。現在、白山における体育会加盟サークルは60団体あります。一方、文化団体連合加盟サークルは23団体、その他公認されているサークルが310団体あります(第1部、第2部を含む)。同様に川越キャンパスでは体育会加盟サークル20団体、文化系団体連合加盟サークルは21団体、その他公認されているサークルが27団体、朝霞キャンパスでは公認されているサークルが35団体、板倉キャンパスでは公認されているサークルが40団体、全学のサークル合わせると536団体となります。また、これに加えて、学生ボランティアの派遣などを行っており、東北応援プロジェクトや熊本地震復興に向け活躍しています。これ以外にも未公認のサークルなどがあり、多くの学生が課外活動をしています。また、今年開設された赤羽台キャンパスでも今後、多くのサークル団体が生まれてくるものと思います。

また、本学では、学部学生の皆さんを会員とした東洋大学学生課外活動育成会があります。これは、課外活動を通じて学生生活の充実とキャンパスの活性化を目的に、自主的な学術・文化、体

育活動への支援を行っています。

大学祭は、学部、学年を超えた学生が実行委員会を形成し、各サークル等とともに数カ月掛けてテーマを掲げ実施し、学生の皆さんには個性豊かな人間形成の機会となります。また、箱根駅伝等におけるスポーツでの活躍は、活力と大学への帰属意識の高揚に大いに貢献しています。

この育成会は、大学の方針である「大学の存続と発展の重要な役割の一翼を担う学生スポーツ活動への理解」に賛同するとともに、今後ボランティア活動等により更に多様化するであろう学生課外活動に対する支援を行います。課外活動への経済的支援により、多元的な社会における大学のアイデンティティの確立を目指し、在学生の学生生活を側面からバックアップしていきます。

複雑化した社会・希薄化する人間関係において、他人との交流や経験によつて新たな目標を見つけ出し、本来自分が持っている夢へのチャレンジ精神を呼び起こすための「きっかけづくりの場」を提供することが、今後の学生支援において非常に重要であることを再認識し、スポーツ強化支援とともに全学生の学生生活において「イキイキと活発な学生の育成」を支援し「魅力ある大学づくり」の一端を担いたいと考えています。

また、東日本大震災等により大きな被害を受けた地域への学生派遣を継続的に計画し、多くの学生が復旧・復興に携わり、社会に貢献することを目指します。

浦水会会員の皆様には、従来から課外活動に對しご理解をいただき、ご支援、ご協力をいただいておりますが、今後のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十九年「父母懇談会」に参加して

父母懇談会（高知会場）に参加して

東洋大学 副学長 高橋 豊美

平成29年8月5日に高知会場の父母懇談会に参加させていただきました。台風が接近して大変に蒸し暑いなかでの懇談会となりましたが、高知だけでなく愛媛からも併せて昨年よりも多い21名のご父母、保護者の方々にお運びいただきました。ご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。

懇談会では、最初に約90分にわたり、本学へのご理解を深めていただくためのご報告をさせていただきます。まず、私の方から、大学の現況と将来のビジョンについてご報告を申し上げます。建学の精神と歴史を振り返り、本学の教育の共通基盤となるカリキュラム「東洋大学スタンダード」をご覧いただいております。現在、本学が文部科学省の「スーパーグローバル大学創生支援事業」に採択されて展開している国際化教育に焦点を当てて、グローバル人材育成のためのさまざまな取組や世界各国の大学とのネットワーク、過去3年間の実績などを紹介いたしました。また、全般的に学修や学生生活、就職、教員免許状の

取得などを支援する体制や設備、充実した奨学金制度についてもご案内をいたしました。そして最後に、将来のビジョンとして、創立125周年に発表した「未来宣言」と今年の3月に発表したBeyond2020についてお話させていただきました。

続いて、就職・キャリア支援課より本学の就職状況、就職支援体制などについてご報告を申し上げます。また、学生とともに卒業後の進路をお考えいただくうえでご理解いただきましたことなどについてもお話ししました。卒業後の進路はご参加いただいた方々におかれましてはご関心をもたれるところかと思えますので、最新の情報をお届けするのも、この懇談会の重要な役割であると考えます。

最後に教務課より成績表の見方についてご説明を申し上げます。本学では、成績評価の国際的通用性を高めるために、今年度から学修成果を示す指標のひとつであるGPAの算出方法を変更いたしました。例年、修得単位や成績についてお問合せをいただくことが

多く、前述の変更点も含め、成績表についてご理解を深めていただけるように努めました。いずれの報告についても熱心にお聞きいただいて、これからも本学へのご興味、ご期待にお応えしていかなければならないと思いを強くいたしました。

個別面談では、昨年よりも多くの方々からお申し込みをいただきました。ご質問、ご相談を直接伺うことができるこの面談は、大学にとっても貴重な機会です。もともと話題になることが多かったのは成績と修学状況で、ゼミナールなど主体的な学びの状況に関する担当教員からのコメントに高いご関心をお寄せいただきました。そのほかには、1・2年生は関東での生活状況について、3・4年生は就職支援に関する学内行事への参加状況などについて、ご質問、ご相談が今年は多かったようです。また、個別相談の順番をお待ちいただく間に、ビデオをご覧いただきながら、大学の各キャンパスと学生たちの様子などを紹介させていただきました。

大学からお送りしている発行物がとても参考になるとの嬉しいお声もいただきました。今後より一層、ご父母の皆様にご寄り添ったサービスの充実に努めてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

平成二十九年年度

父母懇談会(広島会場)に参加して

東洋大学 副学長 中原 美恵

八月二十七日(日)、広島ガーデンパレスにおいて、広島・山口地区父母懇談会が開催されました。昨年度同様、父母懇談会、浦水会支部総会、支部総会懇親会の三部構成で実施され、広島地区、山口地区それぞれから多くのご父母が参加されました。本学からは、朝霞事務課長谷川課長をチーフとして、六名の職員が参加いたしました。長谷川チーフ、卒業生・浦水会連携推進室伊藤課長補佐を中心に、経験豊富な職員チームにより、会場設営・準備から父母懇談会全体会における講話・説明、個別面談まで、大変スムーズに進みました。

初めて父母懇談会に参加されるご父母の方も多かったことから、開会までの間に、各キャンパスの学習環境や学生の取り組みをご紹介しますビデオが流されました。熱心にご視聴くださる様子を拝見しながら、広島・山口の地から本学へ学生を送り出してくださったご父母のみなさまに、日ごろの学生の状況をお伝えすることは、われわれ教職員の大変な役割であり、父母懇談会は大変貴重な機会であることを実感いたしました。

父母懇談会は、①講演「東洋大学の現在と未来」②就職・キャリア説明、③成績表・履修

登録確認表の説明を全体会として行い、その後、個人面談が行われるという構成でした。①において、大学を代表し、変革期にある本学の現況と目指す将来ビジョンをお話しさせていただくのが私の役割でした。

講演では、「東洋大学の現在と未来」と題するスライドと、「平成二十九年年度父母懇談会ガイドブック」(「東洋大学はいま 二〇一七」を資料として、ご説明させていただきました。建学の理念、本学の歴史、今年度赤羽台キャンパスでスタートした情報連携学部を含め、十三学部四十六学科を擁する総合大学としての現在の本学の状況と、順にお話を進めさせていただきました。

貴重な時間でありますので、講演原稿を用意して臨みました。しかし、井上円了先生が幕末から明治にかけての変革期に、「哲学」を基盤とした人材育成の重要性を説き、「独立自活」「知徳兼全」を掲げた教育を実践した先見性の高さを語るところではつい熱が入りました。学生一人ひとりが真に自立し、自己の生涯を支える人間力を培うことができるよう、教職員一丸となって取り組んでいる本学の「いま」のルーツがそこにあることを、日々誇らしく感じている

からです。

続いて、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業採択以降、東洋大学が取り組んでいるグローバル人材の育成に関わるカリキュラム、英語教育、海外研修プログラム、学習支援体制など、充実した教育内容についても詳しくお伝えしました。限られた時間ではありますが、建学一三〇周年を迎えた東洋大学が建学の理念をベースに活き活きと進化し続けていることを、ご父母の皆さまに少しでも実感していただけるよう、お話しさせていただきました。

続いて、学生支援体制、奨学金、学生スポーツ支援とご説明いたしましたが、会場が一番盛り上がりましたのは、今年度の学生アスリートたちの華々しい活躍をご報告した折だったかと思えます。自己を磨き、成長する学生の姿を、喜びをもって受け止めていただけたようです。休憩時間には、運動部学生のご父母同志が明るく歓談される様子も見られました。

その後、②として、就職・キャリア支援課萩原課長より、就職講演「今どきの就職活動と保護者の関わり方」があり、③成績表・履修登録確認表の説明を長谷川課長が行いました。就職・修学ともにご父母の関心が高く、全体会に続く個別面談では、学生の修学状況や就職状況の確認やご相談が多く寄せられました。個別相談は、長谷川、萩原両氏に加え、経営学部教務課市橋課長補佐、学生部学生支援課市橋課長の四名にご担当いただきました。

最後になりましたが、ご尽力いただきました浦水会事務局の皆様には感謝申し上げます。

文学部における21世紀を生きる 学生教育の基軸

文学部長 矢口 悦子

文学部では今年、国際文化コミュニケーション学科を新設し、希望に満ちた新入生を迎え入れることができました。この学科を創設するために尽力してきた多数の教職員に加え新たに着任した先生方も揃い、その影響は他の学科にも及び、学部全体が新鮮な面持ちで2017年度を迎えました。この学科の基盤となった英語コミュニケーション学科の2年生以上の学生たちは、兄や姉のような心持で、新入生を歓迎してくれています。21世紀の今、文学部が提供する学びの場は次のような縦軸と横軸から構成されています。

縦軸は各学科が提供する教育課程そのものであり、講義や演習、ゼミナール等を通して専門領域における最新の知識や課題をしっかりと学ぶことのできる道筋が考えられています。それは、カリキュラム・マップと呼ばれるものです。

横軸は教育活動の方針となる考え方（3つのポリシーとして表現されています）によって形づくられています。学生たちに身につけてほしい深い洞察力や探究心、物事を多面的に捉える眼力、知

的な好奇心に導かれて学びを喜びとして感じる力、そして現実社会の荒波を生き抜くための知恵とタフさ、そうしたさまざまな力の育成を目指して、横軸が縦軸と交わることができるように、授業以外にも多様な学習機会を提供しています。

例えば、文学部グローバル化推進委員会を中心に企画を推進している海外文化研修は、一般的な語学研修とは一味違った海外の豊かな歴史や文化についての体験的な学びの機会を学生に提供しています。西洋や東洋の歴史に造詣の深い教員を多数擁する文学部ならではの自負しています。

今年度スタートした「東洋伝統文化（TDB）講座」では、これまで日本文学文化学科や東洋思想文化学科が主導してきた舞台鑑賞機会提供の経験を生かし、能と狂言、声明、落語等の伝統文化を実際に鑑賞することで、自文化への理解を深める機会を提供します。英米文学科や教育学科の教員の力を借りて、英語での発信力をつけることも含んでおり、増えている留学生にとっては日本の伝統文化に触れる貴重な体験学習の場となっています。

ます。

自己と自文化を深く理解することなくして、他者を理解することはできないという考え方は、各学科に共通します。表面的な見え方の違いや、急激なIT革命によってもたらされたグローバル化の荒波にもまれ、何を頼りにどのような方向で学びを進めればよいかわからない、と感じる学生たちが急増しています。導きの星も、手がかりとなる灯台も嵐で光が届きません。そうした時に、学生とともに今を生きる教職員ができることは、学生たちが自らのこれからを支えることのできるような「軸」を打ち立てられるように、さまざまな形で伴走することだと考えております。



矢口 悦子

文学部教授

御茶の水女子大学卒業。
同大学院人間文化研究科（博士課程）満期退学。
博士（人文科学）。専門は社会教育学・生涯学習論。
著書に『イギリス成人教育の思想と制度—背景としてのリベラリズムと責任団体制度—』等。

成績優秀者を励みに 持続的な積み重ねを

経済学部長 小川 芳樹

経済学部では、1年から4年まで4年間の大学生活において学生が目標を持って持続的な勉学の積み重ねができるように、幅広く成績優秀者の表彰を行っている。これは、卒業式において4年間の累積で限られた成績優秀者を表彰するのとは異なっており、毎年、各学年の一定規模の人数を表彰するものである。本稿ではこの活動を紹介したい。

(1) 成績優秀者の表彰式

経済学部の成績優秀者の表彰式は、2011年からすでに7年ほどの実績を積み上げてきた。それまでは卒業式で各学科の成績優秀者を3名のみの表彰であったが、それを励みに学生が持続的な積み重ねを行えるように、毎年、一定規模の成績優秀者を表彰できる仕組みを導入した。

具体的には、第1部の各学科は1年次、2年次で20名、3年次で15名の成績優秀者を選出している。定員の少ない第2部は第1部より少ない人数である。卒業



写真①: 平成28年度成績優秀者の表彰式にて (平成29年4月5日)

式で3名という狭き門に比べれば、各学科各学年で10%前後の選出は自分も頑張ればという学生の励みに大いにつながる。

写真①は今年の4月初めに行われた平成28年度の成績優秀者の表彰式の様子である。4学科の各学年の成績優秀者が一堂に会するので、表彰式を行う教室は熱気に満ち溢れる。成績優秀者は一人ひとり拍手の中で表彰されるので、学生は表彰式の日を迎えることを大変うれしみにしている。

(2) TOEIC成績優秀者の表彰式

東洋大学はスーパーグローバル大学創生支援事業の対象校に選出されたので、全学を挙げて国際化のプロジェクトに取り組んでいる。経済学部では、その取り組みの一環の1つとして今年からTOEICの成績優秀者を表彰する制度を導入し、学生の継続的な取り組みを促している。

TOEICの成績優秀者は、学科別ではなく学部全体で20名の学生を学年別に選出することとした。1年毎ではなく各 semester でその前半年間のTOEICの成績に基づいて選出される。同じ学生が何度選出されてもよく、学生の継続的な取り組みへのインセンティブとしている。

写真②は、今年7月に行った初めてのTOEIC成績優秀者の表彰式の様子である。初めての表彰式に参加した学生はそれほど多くなかったが、

表彰を受けた学生は大変うれしそうであった。これが励みとなって大学卒業まで英語力を維持するとともに向上してほしいと願っている。

(3) 終わるにあたって

甫水会の地区別父母懇談会で、8月6日に釧路をお訪ねして北海道の保護者等の方々と意見交換を行う機会があった。最も印象に残ったのは、保護者の皆様が学生の将来に深く関心をもつて就職活動の最新動向に耳を傾けておられたことである。

学生が社会へ船出して通用する力を身につけるには、多くの学生が励みを持って大学での4年間の勉学・生活を持続的に積み重ねることが何よりも重要である。保護者の皆様からも経済学部の成績優秀者のチャンスを活用するように学生に勧めただけだと大変うれしく思う。



小川 芳樹

経済学部教授

東京大学大学院理学系研究科
科学博士課程修了 理学博士 (東京大学)。
(財)日本エネルギー経済研究所勤務を経て、
2004年から経済学部教授、環境経済学専攻。
趣味は歴史もの・ファンタジーものの読書、スキー、
クラシック音楽鑑賞。



写真②: 初めてのTOEIC成績優秀者の表彰式にて (平成29年7月3日)

経営学部が取組む二十一世紀の人財育成について

経営学部長 長島 広太

経営学部は昨年度に開設五十周年を迎えました。本学部の教育が社会に認められることによつてここまでこられたものと感謝しております。同時にこれからの五十年、百年にどういう人財を世に送り出していくのかを考える契機ともなりました。

二十一世紀に入つてすでに十七年が経過しています。二十世紀を迎えようとしていた時よりも、今のほうが大きな変革が近づいているような気がします。自動車が自動運転になり本当の自動車になる日も間近になりました。AI（人工知能）のブームは何度かありましたが、囲碁や将棋で人間に勝利するようになるなど、急速にその能力が向上しています。そのようななかで、どのような力を携えた人財を世に送り出すかはとても重要なことになってきています。

本学の建学の精神は「諸学の基礎は哲学にあり」です。ここでいう哲学とは、竹村学長の言葉を借りれば、「考察のトレーニング」です。経営学部においては、まさにこの精神のもとで、豊富な知識や情報をもとに、考える力を持った人財を育成したいと思っています。

日本の手本になる国が古くは唐であつたり、その後ヨーロッパやアメリカであつたり、どこかに存在していました。その後、必ずしもお手本になるとは言えなくなり、予め正解があるわけではなく、自分で正解を導き出す必要がでてきました。

そして、これから領域によつてはAIが正解を出してくれることもあります。そのような世の中では、自ら考える力が重要であつて、特に自分で仮説をたてることのできる人財が求められるはずで、す。定型的な判断はAIが得意な領域です。しかしながら、そこに投入するデータがない問題やそもそも何が問題であるかわからない状態もあります。これらの問題では、新たな仮説を作り出せることが必要となります。そのために、考える力を伸ばす教育が改めて意味をもってくるわけです。

経営学部ではゼミといっていますが、演習教育を重視しています。演習は少人数で、学生が主役となつて、自ら課題を発見し、その解決に必要な情報や方法を探求し、それをもとに仮説を導出し、検証します。それについて学生同士で議論をしてさらに考察を前進させていくことができます。このような教育によつてこれからの社会に必要な力を身につけることができるはずです。

演習で考えるといつても、そのもとになる知識や方法の修得が前提となります。これらは、講義形式の授業で効率よく得ることができるようです。この両者をうまく組み合わせることによつて、経営学部の教育は成り立っています。

これからの世の中は一国のなかで完結することではなく、ますますグローバル化していくことになります。経営学部ではもとより英語で専門教育を

おこなうGBC（グローバル・ビジネス・コミュニケーション）と呼ばれる科目群を設けています。一、二年次の英語教育もビジネス英語という科目名に変更しています。このようにこれからの時代に適応した英語教育をおこなっています。

さらに、本年度からタイへの海外研修を開始しました。来年度からイギリスのオックスフォード大学ハートフォード校へのビジネスを意識した英語研修を予定しています。これらは学部独自の企画で経営学部の教育方針に則したものととなっています。本学がSGUに採択されて、英語の実力によつて奨学金も用意されているので、比較的行きやすくなっています。自分の目で海外を見て、考えてもらいたいと思っています。

経営学部では資格取得についても特別の講座を設けるなどサポートしています。公認会計士、中小企業診断士、税理士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、統計検定などに合格すると、経営学部奨励賞を授与しています。英語についても、TOEIC七百三十点以上相当の得点者に同賞を授与しています。考える力を伴って資格が活かせると思っています。

経営学部では二十一世紀の社会で活躍できる人財の育成を全力で目指しています。



長島 広太

経営学部教授

早稲田大学商学部卒業・同大学大学院
商学研究科博士課程満期退学。

早稲田大学商学部助手、東京国際大学教授を経て
2008年から本学経営学部教授。

マーケティング専攻。インターネットを活用した
マーケティングを研究している。

日本ダイレクトマーケティング学会副会長。

法学部が取り組む二十一世紀の人材育成について

法学部長 井上 貴也

(1) はじめに

法学部では、本学創立者である井上田了博士の教育理念を踏まえ「哲学と倫理学との総合的基盤の上」にわが国独自の法律学の樹立を目指し、創設されたという歴史を有しています。法学部は、昭和三二（一九五六）年に創設され、六二年目を迎えることが出来ました。その間、「法律学の論理及びその実践に通じた有為の人材を養成し日本の文運の隆盛に寄与」するべく卒業生を世に送り出してきました。

今日でも、創立時の理念は変わることなく、社会経済の変化や時代の要請に応えるため、多様で幅広い一般教養教育、実地的に有用な法的知識の教授および法的思考力の錬磨を通じ、社会経済情勢を広い視野から認識し、時々の問題解決に必要な法的素養を身につけ、各分野で社会経済の発展に寄与しうる提言等を行うことができる、進取の気性に富んだ人材の育成を学部教育目標に掲げ、様々な取り組みを進めています。

以下、全学の教育目標でもある、①建学の理念に関わる「哲学教育」、②時代の要請に応える「国際化」、③学生の一人ひとりの真の自己実現を支える「キャリア教育」という三つの柱に沿うようなかたちで法学部の主な取り組みを紹介させていただきます。

(2) 哲学教育について

法学部では、基盤教育科目として「井上田了と建学の精神」を第一部、第二部ともに年次必修科目として配置しています。創立者である井上田了博士の思想と建学の精神を学ぶことにより、因習に縛られることなく、幅広い視野から物事の本質を見極め、自らで考え抜くことの大切さを学びます。座学による学習だけではなく、田了博士が「哲

学をテーマにした精神修養」の場として明治三六（一九〇三）年に創立した中野区にある哲学堂公園を見学し、田了博士の哲学に直接ふれる機会も設けています。

(3) 国際化について

◆TOEIC IIRP
二月～二月に二年次の英語習熟度別クラス分けおよび学修成果の把握のため、TOEIC IIRP試験を実施しています。獲得スコア六五〇点以上で法学部表彰制度の対象にしています。検定料については、全額を大学が負担しています。英語クラスを能力別クラス編成にしたことにより、学部のTOEIC IIRPスコアの上昇も図られています。

◆海外研修

法学部では三つの海外研修を実施しています。

まず、イギリスのロンドン大学が実施する「夏季英語音声学セミナー」です。このセミナーは、英語の発音・聴き取り技術の向上に主眼を置いた二週間集中プログラムです。つぎに、ドイツ・ミュンヘンで行われる語学研修です。異文化コミュニケーション協会がミュンヘン大学と合同で設置する語学研修への参加を通してドイツ語の能力を高めるプログラムです。ドイツの裁判所や政府官房などの見学も行い、ドイツ語と併せて法律の学びも深めることができるのが特徴です。最後に、ノルウェーのトロムソ大学における平和学研修です。英語の講義を通して、教育や社会経済発展、平和に関する幅広い知識、視野を身に付けることを目的としています。一定の語学スキルを有する学生を対象とし、国際関係に関する専門的かつ実践的研究に触れることができます。

(4) キャリア形成について

法学部の取り組みとしては、「公務員対策講座」があげられます。法学部を目指す学生には将来、公務員を志す者が多くいます。学生の経済的負担を軽減しつつ、勉学の環境を整えるために予備校と提携した対策講座を設けています。対策講座以外にも、受講者に対し個別相談会や直前模擬面接指導、公務員試験合格者報告会などを実施しています。

法学部では、不動産や知的財産管理などに関する資格取得・検定試験合格を目標とする受検対策講座、日本語能力や時事問題など、幅広い就職活動に役立つ資格・検定試験の受検対策講座を開講しています。

平成二九年度には不動産鑑定士、土地家屋調査士に講師をお願いし「特殊講義」を開講しています。法律が実務でどのように用いられているのか、生きた法律を学ぶ機会でもあります。

毎年、二月には四年生の就職内定者による個別相談会を実施しています。三年生が四年生に就活のポイント、経験等を聞ける絶好の機会です。参加した学生は、メモを片手に先輩達の説明を身を乗り出して聴いている姿が印象的です。

法学部では、学生の自主性を尊重し、自らで将来を切り開く力を大切にしたいと考えています。個々の教員もオフィスアワーを設けて、学生の個別相談にも応じています。

(5) おわりに

法学部の教育課程も先に述べた三つの柱が中心に据えられています。法学部で学んだ学生が、価値観が多様化し国際社会の中で、様々な困難な問題に直面したときに、法的思考力に裏打ちされた柔軟な思考を持って、乗り越えていける実力を備えた学生の輩出に努めて参ります。雨水会の皆さまのご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げます。



井上 貴也

法学部教授

東洋大学大学院法学研究科私法学専攻博士後期課程満期退学、法学部講師、助教授、准教授を経て2008年4月より教授。

趣味は、鉄道を利用した旅行、法律史めぐり。

専門は、商法、会社法

※法学部では、保護者の皆さまへ、毎月14（とーよー）日にメールマガジンを配信しています。http://toyodaigakuhougakuburenrakmobi/

社会学部が目指す人材育成

社会学部長 大島 尚

社会学部は、1959年に開設されて以来60年

近くの伝統の下、理論、実証、実践の結合を教育理念として、特に調査実習や演習（ゼミナール）に重点を置く教育を行ってきました。開設時は社会学科と応用社会学科、第2部社会学科の3学科体制でしたが、2000年から第1部が社会学科、社会文化システム学科、社会福祉学科、メディアコミュニケーション学科、社会心理学科の5学科となり、2001年には第2部社会福祉学科が加わり、現在は7学科体制のもとで教育を行っています。時代とともに社会が複雑化し、解決すべき問題が拡大し多様化してきており、そのようなニーズに応えるための体制づくりの結果と言えます。

社会学科は、社会学部を支える根幹の学科で、学問としての社会学を背景に社会を見る目を養い、自分なりの視点を持って考え、調べ、発表・提言することのできる人材の育成を目指しています。卒業論文・卒業研究を必修にしており、各専門分野の教員が学生の目線に合わせてきめ細かい指導をしている点に特色があります。

社会文化システム学科では、グローバルな視点に立ち、世界で生じている社会現象や社会問題が、「社会」と「文化」を一体としてとらえることで理解できるということを学びます。社会学に加え、文化人類学や地域研究の教育を背景に、語学力の養成にも力を入れ、強い現場志向と実践力を持つ

人材の育成を目指しています。

社会福祉学科は、現代社会においてニーズが高い児童、障害児・障害者、高齢者などへの福祉環境の提供とその運営に寄与できる人材を育成しています。実習と演習に力を注いでおり、「社会福祉現場実習」では福祉の現場をリードする実践力を養い、社会福祉士など「福祉のプロ」になるための貴重な体験の機会が与えられます。

メディアコミュニケーション学科は、高度情報社会で活躍できる人材の育成を目指しており、学生は情報とメディアに関する専門知識を身につけ、それを実社会で活用するための実践力を養います。多彩なメディアを使いこなして情報を制作、伝達、蓄積、探索する技術と、情報内容を的確に受容、批判、評価する能力の獲得を目指します。

社会心理学科では、人間を「社会的な存在」であると考え、社会的な状況における心の働きや、社会現象の中にある心理学的な問題を取り上げて、分析・研究する方法を学びます。心理学の主要な研究方法である「実験」の実習が行われることに特色があり、多彩な分野における科学的な研究方法を身につけ、実社会で生かすことができます。

第2部（イブニングコース）の社会学科では、第1部を構成する5学科の特色ある科目群の中から抽出した科目を通じて、社会学を広く多角的に学ぶことができます。各学科の教員が担当する演習では、自ら調べ、発表し、仲間と議論をしてい

く中で、様々な考え方を知り、問題意識を広げ、明確化していくことができます。

第2部社会福祉学科は、第1部と同様に実習と演習を重視し、福祉の実践に強い人材の育成に力を入れています。夜間開講の特色を生かし、生涯学習や昼間に就労している人など、様々な背景を持ちながら、社会福祉に強い関心を持つ学生に、学びの場を提供しています。

社会学部の教育内容は、高校で学ぶ科目や受験科目とは直接に結びついておらず、ほとんどの高校生は「社会学とは何か」ということを理解していないものと思われます。それにもかかわらず、毎年多くの受験生が応募してくれるのは、高校生たちが漠然と「社会」を意識しており、何らかの形で「社会に貢献したい」と考えているからではないかと想像します。社会学部の教育の目標は、学生のみなさんがこのような意識を明確化し、人間社会の多様な側面を知り、柔軟かつ鋭い観察眼と弛まぬ実践力を備えて社会に貢献できるようにすることです。教員は単なる指導者ではなく、学生の自主的な学びを促し、成長を見守る支援者となることを目指しています。



大島 尚

社会学部教授

1975年東京大学工学部計数工学科卒業、1978年東京大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程中退。

文学修士。1978年東京大学文学部助手、1985年東洋大学社会学部専任講師、1988年同助教授、1995年同教授となり現在に至る。

教務部長、国際交流センター長、大学院社会学研究科長などを歴任。認知心理学、社会心理学を専門とし、情報システムと人間、対人関係とコミュニティ意識、価値観の文化差などの研究を行ってきた。現在は、人工知能の社会的意義に関心を持っている。

二十一世紀を担う理工系 プロフェッショナルの育成

理工学部長 寺田 信幸

高度に発達した社会構造を持つ21世紀に求められるのは、多面的な難題を解決し人類の健康的な生活を確保していくことでしょう。そのためには、自然界の営みに学び、環境に負荷の少ないエネルギーの利用方法を探り、環境と人間の活動との共生、心身の健康管理・維持、体に負担の少ない医療・検査技術など、新たな方策を見いだせる人材を育成することが必要不可欠です。

広い基盤的な理学的知見を持つて、先端的な科学分野を創造的に切り開く人材育成

高等教育を担う大学の役割は、大きな変換点を迎えています。これから益々少子高齢化が進み、労働人口が減少して行く日本において、国際競争力を維持・向上させ、活力ある地域経済社会を構築し、医療・介護サービスの持続的かつ効率的な提供を実現していくためには、数多くの課題を克服していかなければなりません。新しい価値の創造や技術革新など、イノベーションを果たし、新たな価値を生み出していく人材の育成が必要です。

東洋大学理工学部は、時代のニーズに即した理工系人材を輩出するため、学部4年間と修士2年間の教育をシームレスに繋いだ教育プログラムを学生の皆さんに推奨するとともに、文部科学省の「理工系人材育成」の指針に沿い、理工系プロフェッショナル人材輩出を目指した取り組みを推進しています。「創るって楽しい」その想いを大切に育み、

ものづくり、地域づくり、国づくりの根幹を担うエンジニア、サイエンティスト、アーキテクトの育成を目指しています。

理工系グローバル人材の育成

グローバル展開をしている企業に対して、学生の皆さん自身が感じている数居の高さを払拭して、海外への興味を持つて頂き、世界に目を向けてもらい、異文化理解や協調性を獲得して頂きたいと考えています。上場企業のみならず、それぞれの学科・専攻で扱う研究領域のパイオニアとなっている地元企業など、企業を支えるミドル層でトップを張れるエンジニアを育成することが、理工学部・理工学研究科の使命だと考えています。そのためには、理工学領域での基礎・専門・応用において、やるべきことをきちんと押さえることが、まずは肝要です。併せて、東洋グローバルダイヤモンド(TGD)構想を活用し、世界を意識できるエンジニアへと育成します。スーパーグローバル創成事業を意識して入学した学生の皆さんにも満足して頂けるよう、海外留学が出来る水準へと引き上げられる学習の場を提供しています。全学TGLプログラムの連動した各種プログラムやイベントを実施するとともに、川越キャンパスの3か所に用意したグローバルコミュニケーションスペース(GCS)では、ディスカッションクラブ、英語初級ミニ講座など独自講座を開講し、留学生との交流イベント

や海外の記念日に関連したイベントを開催しています。MOOCsやTEDなどインターネットで配信されている優れた英語での教材を利用した学習環境を整備し、適切にフォローすることで自主学習の定着を図る支援体制も整えました。

また、授業科目を通じて、初年次教育からキャリア教育へのスムーズな接続を図り、大学での学修において必要なスタディスキルの修得とコミュニケーション能力を向上させる取り組みも行っています。「わくわく」しながら目的意識をもって熱中できるものに学生の皆さんが出会えるよう、いろいろな興味・関心を持った学生さん達の心に響かせるため、さまざまな取り組みでアプローチし、「わくわく感溢れるキャンパスの創成」を目指しています。

以上、川越キャンパスにおける21世紀を担う理工系プロフェッショナル人材、理工系グローバル人材育成への取組について述べさせて頂きました。何よりも若い皆さんが、日々、生き生きと輝き、明るく微笑みを持つて取り組める環境を創出していきたいと思っています。これらの取組には各方面の多くの皆様の叡智が不可欠です。何卒、ご指導、ご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



寺田 信幸

東洋大学理工学部生体医工学科教授

1952年大阪に生まれる。1976年に東邦大学理学部生物学科を卒業。1976年信州大学医学部附属病院、1978年国立循環器病センターを経て、1982年山梨医科大学生理学講座に助手として赴任。1992年に博士(医学)取得(山梨医科大学)、同年山梨医科大学医学部助教授。大学統合で2002年より山梨大学総合分析実験センター助教授。2005年4月より東洋大学工学部機能ロボティクス学科教授、2009年4月東洋大学理工学部生体医工学科教授。2012年学校法人東洋大学理事、2015年4月より理工学部長。
専門分野：生体医学、環境生理学(循環生理)、宇宙医学、医療情報

「総合情報学部が取り組む二十一世紀の人材育成について」

総合情報学部長 土田 賢省

高度に専門化が進み、複雑化した現代社会においては、単一の専門家の知識だけでは問題を解決することは困難であり、複数の専門領域を横断して社会的問題の解決にあたる必要があります。そのような中で、様々な専門領域が関わる分野では、情報学が重要な役割を担っています。実際、現代社会では、ICT (Information and Communication Technology = 情報通信技術) はすべての分野に存在しており、切り離して考えることは不可能となっています。このような社会においては、幅広い分野でITスキルを持った人材が重要となります。こうした背景のもとに、2009年度に「第一級の情報の創り手・使い手」を育成することを目標として、総合情報学部が設置されました。しかし、8年が過ぎた今現在においてもIT技術は日々刻々進化し、企業や個人の行動様式も大きく変化しており、その速度は加速の度合いを強めています。世界各国ではこうした環境下で、国際競争で生き残るために、国を挙げて中長期的な人材の育成・確保に向けた取り組みを進めています。まずまず激化するIT技術の革新を中心とした国際競争の中で、我が国が後塵を拝さないためにも、現在および未来の変化に素早く柔軟に対応することができ、新たなIT人材育成の重要性がIT企業、ユーザ企業において高まっています。そして、産業界においても、コンピュータを利用したイノベーションは、ITの専門家によるよりも、

むしろITスキルを備えた別分野の専門家によって起こされる場合が多く、この意味においてもITスキルは基礎能力としてあらゆる分野で重要であると認識されています。

このようなニーズに応じて、ITが関わる様々な分野において、未来を切り開くイノベーションを起こし、世界で活躍できる卓越した研究者・技術者を育成するために、本学部は、大学院総合情報学研究科博士前期課程・博士後期課程とも一体となって教育に取り組んでいます。

総合情報学は、情報学を拡大した学問分野として認識されています。情報学自体が比較的新しい分野であるので、さらに新しい分野といえます。総合情報学は文系と理系の垣根を取り払った学際的で総合的な学問と定義されます。対象とする分野は、人文・社会科学系と理工学系の両方の分野にまたがります。

本学部においても、上記のような情報を核とした文理融合の理念の下で、現在そしてこれからの社会で新たな人材が必要とされる分野と所属教員の専門分野を考慮に入れて、文理に渡り学際的な3分野、システム情報、メディア文化、心理・スポーツ情報の3コースを設置して、教育を実践しています。大学院博士前期・後期課程においても同じ3つの研究分野で教育を行っています。

システム情報コースでは、ICTを活用したシステムを「提供する側」の視点から、システム・

ソフトウェア開発やシステム管理・運営の能力をもつ人材と、ICTを活用したシステムを「利用側」の視点から、組織マネジメント、経営・財務マネジメント、製品・サービス企画の能力をもつ人材を育成します。

メディア文化コースでは、コンテンツの創り手・使い手として、基礎知識から応用技術を持ち合わせた人材と、コンピュータを用いて様々な現象を視覚的に表現する能力や多様なメディアコンテンツやアプリケーションを自由に作成する能力をもつ人材を育成します。

心理・スポーツ情報コースでは、パーソナルトレーニングやメンタルトレーニングの能力・資格をもつ人材と、ICTを活用し、スポーツ器具・用具の開発やスポーツ分野における科学的分析能力をもつ人材と、心理実験やカウンセリングの実施および心理分野におけるIT活用能力をもつ人材を育成します。以上のように本学部では、文理の幅広い分野で、ITを自在に使いこなして、新たな社会を支え、未来を切り開ける人材の育成を目指しています。



土田 賢省

総合情報学部教授

昭和33年3月、大分県速見郡日出町に生まれる。
昭和57年3月、早稲田大学理工学部数学科卒業。
昭和59年3月、早稲田大学大学院理工学研究科博士前期課程数学専攻修了。
昭和59年4月、株式会社日本電気入社、ソフトウェア生産技術研究所研究員。
平成2年4月、神奈川大学工学部工業経営学科助手。
平成4年4月、東洋大学工学部情報工学科専任講師。
平成6年10月、早稲田大学より博士(理学)取得。
平成7年4月、東洋大学工学情報工学科助教授。
平成9年9月～平成10年8月、米国オレゴン州立大学コンピュータサイエンス学科客員助教授。
平成14年4月、東洋大学工学情報工学科教授。
平成21年4月、東洋大学総合情報学部総合情報学科教授。
平成25年4月～平成27年3月、東洋大学総合情報学部総合情報学科学長。
平成29年4月、東洋大学総合情報学部学部長。
専門領域は、ソフトウェア工学、グラフ文法の実用、アルゴリズム、知的アプリケーション等である。

国際学部が取組む21世紀の人材育成

国際学部長 荒巻 俊也

1. 国際学部の開設

グローバルゼーションが進む社会ではさまざまな問題が複雑に絡み合いながら起こっており、このような問題の解決には、グローバルな視点から社会のさまざまなシステムに変革（イノベーション）を起こしていくことが求められます。さらに、このようなイノベーションを地域社会に展開し、さまざまな地域の自律的な発展を図っていく必要があります。

このような背景から本年4月に「国際学部」を新設し、グローバルな視点から社会システムにイノベーションを起こしうる人材を育成する「グローバル・イノベーション学科」を新しく設置し、また20年にわたってさまざまな地域の自律的な発展に貢献する人材を育成してきた「国際地域学部国際地域学科」の教育研究機能を強化・発展させて「国際学部国際地域学科」とし、グローバルな社会におけるさまざまな課題に対して実践的な活動を展開できる人材の育成を始めています。

2. グローバル・イノベーション学科（GINOS）における人材育成

GINOSでは、「ひとと地球と対話する「哲学」の精神に、水平志向のグローバルな才能を育成する」を基本方針に、全ての授業を英語で実施、国内学生は1年間の海外留学、3割が海外からの留学生という環境のなかで、他者と協調・協力して解決策を探る対話力や新しいしくみを発想する創造性、ビジョ

ン（構想）を実現させる強さを備えたグローバルリーダーとなりうる人材を育成します。3度の世界行脚を行い、その経験をもとに日本全国を講演して歩いた創立者・井上円了先生の精神を受け継ぎ、Travel（旅して）、Play（演じて）、Dialogue（対話する）というキーワードのもと、多彩な教育活動を展開しています。

まずTravelでは、1年間の海外留学のみならず欧州各国を訪問して対話を繰り返しビジネス・モデルや政策提言の提案をする「ラーニング・ジャーニー」等のプログラムを実施します。Playでは、創造性（Creativity）を高める実践的演習としての「演劇ワークショップ」などを実施します。Dialogueでは、3割が留学生の中で少数人数でのアクティブ・ラーニングを展開するとともに、ワンストップ学習支援ラボGINOSスタジオを活用しています。

国際経験が豊かな教授陣のもとで「グローバル・システム」「国際ビジネス」「国際コラボレーション」といった分野の学習を深め、グローバルに展開する国際的な企業人材だけでなく、自ら起業していく人材、国際機関や国際的視野で社会に貢献する人材を育成していきます。

3. 国際地域学科（RDS）における人材育成

RDSは、国際的な視野にたった地域づくりに貢献する人材の育成を行うために現場主義に基づいた

実践的な教育を行ってきました。2012年に文部科学省「グローバル人材育成推進事業」に採択され、異文化の理解やコミュニケーション力、実践力等を強化する先進的なグローバル人材育成プログラムを実施してきました。

RDSでの学びのベースになるのは、Think Globally, Act Locally = Globalization from the Bottom Up - 「地に足の着いたグローバルを！」という言葉です。政治や経済をはじめ、食料・水問題など身近な生活にも及ぶ幅広いテーマで授業科目を設け、国内外での調査型研修や長期インターンシップなど実践を通じた学びの機会を充実させています。特に学部新設に伴って、国内学生の海外英語実習やフィールドワークやインターンシップ等の実践型プログラムの必修化等により、さらなるコミュニケーション力や実践力の強化とキャリア形成の支援を図っています。

それぞれの「地域」には特徴があり、抱えている問題や課題はさまざまです。世界、地域、そして人びととの関わりと共感の中で、これらの課題一つひとつを捉えながらその解決に貢献する人材を育成していきます。



荒巻 俊也

国際学部教授
東京大学工学部卒
同大学大学院工学系研究科博士課程修了
博士（工学）
2008年国際地域学部兼任
専門は環境科学・環境工学

学部が取り組む21世紀の人材育成について

国際観光学部長 飯嶋 好彦

テレビなどの報道で既にご存知と思いますが、訪日観光者が急増しています。例えば、2012年に約840万人だったそれが、2016年に約2400万人へと約3倍に増えました。そして、政府は、この増加を背景に、訪日観光者の獲得目標を2020年に4000万人、2030年に6000万人へと引き上げました。

確かに、この新しい目標を達成することは容易でないと思います。しかし、もしこの目標が現実できれば、国内に文化、宗教や生活習慣などが異なる人びとが集う巨大な「グローバル市場」が誕生します。

特に、アジアは世界最大のイスラム社会を有しており、近年それが急速に経済発展しています。そして、経済成長が国民の海外旅行を促すことが知られているため、これまでほとんど接することがなかったイスラム社会に住む多くの人びとが日本を訪れるようになると推察します。

このように、現在の日本は、さまざまな国ぐにや地域からの観光者を迎え入れるようになっています。その結果、観光に従事するためには、旅行者の母国の宗教、歴史や文化、または社会・経済制度を理解・尊重しなければなりません。

また、そのような人びととビジネスを行うためには、国際法や国際会計などの知識を有する人材が必要です。さらに、来訪者の国籍が多様化するにしたがい、多様な価値観をもつ人びとと密接な

関係性を維持しながら共に働き、困難を独力で打破しながら、事業をマネジメントできる人材が求められています。

加えて、国内に誕生するグローバル市場を有効に活用し、新しい雇用と所得をいかに創造するか、来訪者と国内の地域社会や産業をいかに結び付けるかが課題になっています。また、交通手段や宿泊施設、または観光情報などの観光インフラの整備も必要であり、観光産業の労働力構成も来訪者の多国籍化に合わせて多様化させる必要があるでしょう。

私が所属します国際観光学部は、それまでの短期大学観光学科、国際地域学部国際観光学科を継承し、本年4月に生まれ変わりました。そして、上述した目前で生起している観光に関わるさまざまな課題を解決できる人材を養成したい、観光を積極的に創造することで、まちづくりや地域活性化、または産業振興に寄与できる人材を育てたいと考えています。また、多くの国ぐにから留学生を集め、日本の観光産業に定着できるようにしたいと思っています。

他方、日本の観光市場がグローバル化したとしても、訪日観光者が求めているものは、「日本らしさ」であると思います。加えて、世界の人びとのなかで、日本食や日本文化などへの関心が高まり、理解が深まっています。そのため、日本の歴史や伝統芸能、または美術、博物、ポップカル

チャーや映画などの文化面を熟知し、それらを発信できる観光人材が求められていると考えており、そのような人材を育てたいと思っています。

さらに、過疎化やいわゆる「シャッター通り」といった地方が抱える問題を解決するための一手法として観光が注目されています。観光がこの役割を果たすためには、地域活性化策、まちづくり手法、地域のマーケティング手法などに熟知し、地域独自の魅力を発見・伝達できるビジネスパーソンやNPOまたは行政機関の職員が必要です。

加えて、国内の少子高齢化により、日本人の観光行動に閉塞感が漂いはじめています。そのため、この閉塞感を打開し、新たな観光ニーズを開拓できる人材が不可欠です。また、国民の高齢化や健康に対する意識の高まりは、福祉や医療と観光産業との連携を模索しており、それらを結び付けることができる人材にスポットが当たりはじめています。

しかし、現状では、これらの問題に対処できる人びとが不足しています。そこで、本学部では、その対処が可能な観光人材を育成することで、日本の観光の発展に寄与したいと願っています。



飯嶋 好彦

国際観光学部教授

東京大学卒業
横浜市立大学大学院経営学研究科
後期課程単位取得満期退学
京浜急行電鉄株式会社勤務を経て
1999年 短期大学観光学科着任
2001年 国際地域学部転籍
専門はサービス経営学

生命科学部が取組む 人材育成について

生命科学部長 金子 律子

自動運転の車が道路を走るようになるなど、保護者の皆様が学生の頃、想像していたでしょうか？保護者の皆様が学生の頃、パソコンは既に使われていましたでしょうか？記憶媒体はフロッピーディスク、CD、DVD、USBメモリ、Blu-Ray Disc、クラウドストレージサービスなど、目覚ましく変化しています。この50年余りでの様々な技術の進歩は、枚挙に暇がありません。

【生命科学分野での半世紀間での進歩】1950年前後にDNAが遺伝物質であることが発表され、ワトソン (James Watson)・クリック (Francis Crick)・ウィルキンス (Maurice Wilkins) が「DNAの二重らせん構造」の提唱によりノーベル賞を受賞してから、55年が経ちました。その後の生命科学分野での知識の増大と技術の進歩は、凄まじいものがあります。比較的聞き馴染みのある言葉から、この半世紀間の生命科学分野の進歩を挙げてみます。

「再生医学 (tissue engineering あるいは regenerative medicine)」と云う言葉は、1970年代に軟骨の培養 (Green博士ら) や皮膚の培養 (Yannas博士ら) に成功して以来、使われるようになった言葉です。2007年に京都大学のグループがiPS細胞の開発に成功し、山中先生がノーベル賞を受賞してからは、とても良

く耳にする言葉となりました。今では、心臓や角膜など様々な難病の治療にiPS細胞が使われ始めています。

高熱で生存する極限環境微生物である好熱菌 (Thermus aquaticus) が産生するDNAポリメラーゼの利用によるPCR法 (DNA複製技術) の開発により、1993年にキャリー・マリス (Kary Mullis) がノーベル賞を受賞しました。この技術により様々な遺伝子解析が行われるようになりました。それにより、「遺伝子検査」という言葉も新しく生まれました。精度の高い「DNA鑑定」が可能になり、親子鑑定や犯罪捜査に用いられています。また従来の薬よりも効果が高く副作用が少ない、個人にあった医療を行う「オーダーメイド医療 (tailor-made medicine)」が開発されています。

【生命科学分野での学生育成】生命科学分野の進歩と共に、この分野の人材育成に対する要求も増えています。他の成長の著しい分野と同様ですが、①基礎的・専門的知識の習得や新しい知識を獲得するためのスキル、②知識を繋げ発展させる思考力、③創造力や好奇心、④行動力や社会性、などが求められています。今から約20～50年前に学生だった方々の多くは、①④を特に意識しなくても、この間の知識や技術の進歩を牽引し、あるいはこれらの進歩と共に歩んで来しました。つまり

は、新しい事を吸収するための「基礎力・専門力」、「思考力」、「好奇心・創造力」、「行動力」そして社会人としての「責任感」、「共感力」、「向上心」などの人間力を育成することが、どの時代であっても大切と思われます。

生命科学部では、①基礎力の確立、基盤教育の推進、②専門知識の修得、③実験・実習を介した思考力・纏める力の育成、チーム作業での社会性の育成、④グローバル化に対応できる英語力向上、⑤体験学習による好奇心や学習意欲の向上、⑥高度な機器の技術指導による専門力育成、⑦プレゼンテーション力の育成、⑩学生による国内・国際学会発表による行動力・発信力の育成、⑪資格取得支援を含めたキャリアプラン形成の促進、専門職に向けた就職支援など、基礎力・専門性の育成と共に、人間形成や向上心育成に繋がるカリキュラムと多彩なプログラムを実施しています。

これらの取組みを通して、理系としての専門性と共に底力のある学生の育成に努めておりますので、様々なプログラムを積極的に利用して頂くよう、ご家庭でもご子息にアドバイス頂ければ幸いです。



金子 律子

生命科学部教授

東京大学理学部生物学科動物学教室卒業。同大学院修士課程終了。医学博士。山形大学医学部・助手 (現、助教)、カナダ・アルバータ大学医学部・博士研究員、聖マリアンナ医科大学・助手 (現、助教)・講師・助教授 (現、准教授) を経て、本学生命科学部教授。専門分野は、神経生物学。

学部が取り組む21世紀の人材育成について

食環境科学部長 林 清

1. 食環境科学部の概要

1997年に創設された板倉キャンパスは、当初は生命科学部生命科学科のみでスタートしました。2009年にはバイオテクノロジーに対する関心の高まりをうけ、応用生物科学科と食環境科学科が創設され3学科となり、2013年には「食環境科学部」が創設されました。食環境科学部は、生命科学部から分離した食環境科学科と、新設された健康栄養学科の2学科構成です。

新たな学部として食環境科学部が創設された社会的背景は、言うまでも無く「食と健康」です。平均寿命の伸長と出生率の長期的な低下により、2050年には、ほぼ3人に1人が65歳以上となる超高齢社会を迎えるとともに、食生活の多様化による食習慣の乱れや運動不足等により生活習慣病が増加し、食と健康に関わる問題に高い関心が寄せられています。

食環境科学部では、食品の機能科学や栄養・健康科学を総合的に探究し、これを高度な栄養指導に発展させ、生命と健康、食の安全に係る分野で活躍できる人材を育成し、国民が生涯にわたり健康で明るく、活力ある生活が送れる社会づくり、国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現（健康寿命の延伸）に貢献いたします。

2. 食環境科学科の近況

食環境科学科は、フードサイエンス専攻（入学定員70名）とスポーツ・食品機能専攻（入学定員50名）の2専攻で教育を行っています。

フードサイエンス専攻では、



生命と健康、食糧生産や加工および流通、食の安心・安全に係わる分野で活躍できるグローバルな食品技術者の育成を目的として、食品機能科学や栄養・健康科学などの高度な知識や、食品の分析や品質管理技術などの食品の安全を高度に追及できる専門能力、健康の視点から食をコーディネートする総合力、食育を通じた食文化の維持・向上につながる指導力をもつ学生を育成しています。

スポーツ・食品機能専攻では、生命科学の知識を基礎に、人体の構造と機能、栄養学、食品学、衛生学、健康増進のための運動と食品が持つ機能（栄養）の関係を学び、身体活動に伴う食事・栄養の摂り方などの専門知識を修得し、食品機能が人体におよぼす影響から生命の営みを科学的に探究できる、食品機能科学やスポーツ栄養科学を熟知した食品技術者を養成しています。また、この専攻では、板倉キャンパスにある陸上競技部女子長距離部門（平成28年度全日本大学女子駅伝8位入賞）及びサッカー部女子部（平成28年度全日本大学女子サッカー選手権大会ベスト8）と連携し、スポーツ活動の中での教育についても実践しています。

3. 健康栄養学科の近況

健康栄養学科（入学定員100名）では、健康と食をつなぐ専門的知識と技術を修得した専門職として、人々の健康の維持・増進のために貢献できる人材育成に取り組んでいます。また、実験・実習に多くのグループワークやプレゼンテーションの場を設け、コミュニケーション能力を含めた人間形成にも力を入れています。

本学科は、2016年度で完成年度を迎えました。本学科で教育を受けた1期生は、高度な知識・技術と高い志を持ち、広く社会へ果立っていきましました。就職先



る高い合格率を得ることができました。

「食べることは生きること」。生きていく限り、食を切り離すことはできません。本学科は、生涯を通じた健康づくりに関連する様々な場所や場面において、主体的かつ協動的に社会貢献できる人材の育成に取り組んでいます。

4. さいごに

食環境科学部では、食品の機能を総合的に探究し、これを高度な栄養指導に発展させ、健康格差を生まない社会創りに貢献できる人材を育成します。また、板倉キャンパスに併設されている生命科学部との協働により、再生医療、革新的医療診断システムの開発など、総合大学の強みを生かして健康寿命の延伸に取り組めます。さらに、板倉キャンパスにある陸上競技部女子長距離部門及びサッカー部女子部とも連携し、スポーツ栄養科学をスポーツ活動の中で実践し、発展させます。

両学科とも、倫理観を持ち国際社会で活躍できる人材の育成に努めておりますので、雨水会の皆様の暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。



林 清

食環境科学部 教授

名古屋大学農学部農芸化学科卒業。
農林省 食品総合研究所研究員、農林水産省
首席研究開発企画官、(独)農業・食品産業技
術総合研究機構 理事、食品総合研究所 所
長をへて、2013年4月より現職。
専門は食品科学、微生物利用、酵素利用。博
士（農学）
主な著書は、食物学Ⅰ、Ⅱ（建邦社）、食品
技術総合事典（朝倉書店）、総合調理用語
辞典（社団法人 全国調理師養成施設協会）、
Biocatalysis and Agricultural Biotechnology
（CRC Press）等多数。

学部が取り組む二十一世紀の人材育成

ライフデザイン学部長 齊藤 恭平

ライフデザイン学部は平成17年3月に開設した学部です。今年で13年目を迎えます。今後わが国が迎える超少子高齢社会を支えるための、知識と技術と意欲を持った人材を育てるために、従来の福祉の発想を超える学問領域として誕生した学部です。人々にとつての理想的な生活や人生、生涯をデザインすることを目指し、子どもから高齢者まですべての人びとのQOLのあり方を創造することを学部コンセプトとして持っています。ちなみに、本学部はライフデザインという学部名を標榜した日本初の学部であり、開設以降、全国的にも同様の学部・学科名を掲げる大学が続いています。

学部開設当初は生活支援学科と健康スポーツ学科の2学科体制ではじまり、遅れて人間環境デザイン学科が加わりました。現在は生活支援学科が生活支援学専攻と子ども支援学専攻の二つの専攻に分かれており、全体としては3学科（2専攻）の体制となっております。福祉や子育て、健康や環境、まちづくり等、学部が網羅する学問や活動の守備範囲は広く、とくに人や地域とダイレクトに繋がりが必要な領域であります。そのような意味から、キャンパスが所在する地元自治体である朝霞市との包括協定を結ぶなど、地域と密着した教育や研究が展開されております。

平成27年には学部創設10周年を記念して、白石弘巳前学部長が「ライフデザイン学部未来宣言」を発表し、「教職員、学生が一体となって、建学

の精神を踏まえ、ライフデザイン学の発展を通じて、地域の関係者の方々とも緊密な連携を図りながら、人を育て、地域を支え、国境を越えて時代を創造する、確固たる担い手となる」との考えを示しています。この宣言内容を継承しながら、今後も継続した地域や関係の方々との繋がりの中で、ライフデザイン学部の教育や研究の発展を目指しているところであります。

地域との関係の具体化とグローバル人材育成

ライフデザイン学部では包括協定を結んでいる地元朝霞市との関係を中心に、多様な地域貢献を通じて学生のライフデザイン・スキル向上を目指しています。学科ごとの一例を紹介すると、生活支援学専攻では「オレンジ（認知症）カフェ」の開設や「地域の高齢者の街歩き支援」等を実施しています。子ども支援学専攻では「子育て広場」や地域の小学生を集めた放課後活動である「きゃんぱす」。健康スポーツ学科では、小学生向けのスポーツ教室として「健康スポーツ倶楽部ASA K A」や高齢者の健康づくり活動の「Keep Active」。人間環境デザイン学科では、ライトアップモニユメントの製作提案や、隣接予定の病院のホスピタルプロジェクトへの参加など、あげれば限が無いぐらいの地域貢献活動を繰り広げております。これが他学部には無い特徴であり、学部が目指す人材育成のための最も機能的な取り

組みであると考えております。

また、大学のグローバル化に伴って、ライフデザイン学部でも基盤教育における語学教育の内容を充実させ、各種の海外研修も導入しています。加えて、招聘した海外の研究者との学生交流や、ゼミ単位での国際的なアクティビティなどを実施しており、アジアの少子高齢社会をリードする人材育成を踏まえた取り組みも始まっております。

ライフデザイン学部の新たな挑戦

大学のホームページ等の発表でも御存知のとおり、本学部は平成33年に東京都北区にある赤羽台キャンパスへ移転することが決定しました。北区といえば、東京都で最も少子高齢が進んでいる地域です。すでに北区と包括協定を結んでおり、今後はその協定のもと、北区をフィールドとした、新たな学部の挑戦が始まります。

福祉、介護、子育て、健康づくり、環境、まちづくり等、ライフデザイン学部が持つポテンシャルを最大限に発揮しながら、理想とする健康福祉社会の情報発信と人材育成に努めてまいります。今後とも雨水会の皆様の御支援と御理解をよろしくお願い申し上げます。



齊藤 恭平

ライフデザイン学部 教授

1960年 函館市生まれ。
1984年 順天堂大学体育学部（現スポーツ健康科学部）健康学科卒業
1986年 同大学院体育学研究科修士課程修了
2012年 博士（医学）学位取得
1986年 順天堂大学助手
1995年 函館短期大学講師～助教授～教授
2007年 東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科教授
2017年 同学部 学部長
専門は健康社会学・ヘルスプロモーション
地方自治体の健康増進計画策定や健康づくり事業の企画立案評価等が専門。
東京都北区オリンピック・パラリンピック・リレーションシップ会議 座長
東京都板橋区文化国際交流財団 理事
飯能市健康体力づくり市民会議 アドバイザー
北海道健康づくり協会 監事

平成二十九年「父母懇談会」を実施して

川越キャンパス父母懇談会を実施して

川越事務部教学課 課長補佐 下川 大輔

平成29年6月11日(日) 川越キャンパスにおいて、父母懇談会を実施いたしました。理工学部と総合情報学部を合わせて300名を超えるご父母の皆様をお迎えし、盛況のうちは無事終了することができました。

全体会は7号館の721教室にて行われ、大学代表者、理工学部長、総合情報学部長、浦水会会長の挨拶の後、就職講演という次第で実施しました。

今年の就職講演のテーマは、「就職活動の現状と親子の接し方」です。働くということ、子どもに対してどのように接していくのか、「親しか出来ない子どももの就職・自立サポート10箇条」と題して、理工学部生体医学工学科の小島貴子准教授に講演いただきました。

小島准教授は本学のキャリアアデベロップメント、インターシップ等の就職キャリア関連授業を担当しており、就職キャリア支援課が発行している「自立への道」の執筆の他、ラジオ番組等にも出演しております。卒業後の進路には就職だけではなく、海外留学や大学

院進学といった選択肢もあることを踏まえ、自身のキャリアと子育て経験に基づいた、説得力のある講演内容に、参加されたご父母の皆様も熱心に聞かれていました。

講演会終了後は、各学科に分かれて、学科別ガイダンスと個別面談が行われました。

学科教員との面談を通して、授業の成績や資格取得、就職など、大学生活に関わる様々な情報を共有されたことと存じます。また、個別面談の待機時間を利用して、川越キャンパスの広大な敷地を自由に見学できる機会を設けました。バイオ・ナノセンタβ棟や図書館など特徴ある建物を含め、緑豊かな学修環境をご覧いただけたのではないのでしょうか。

現在、川越キャンパスでは、グローバル化の推進に向けた、様々な施策を行っています。

英語力に対する学生の意識を高めていくため、また多くの企業が就職活動において英語力を判断する材料としてTOEICテストのスコアを要件としていることから、英語プレ

イスマントテストとして、両学部においてTOEIC-IPTテストを実施しています。定期的にテストを受験することによって学習到達度を測ることができ、学生の英語学修に対するモチベーションの向上を図っています。また、学部の海外研修として、ペース大学(アメリカ)、チュラロンコン大学(タイ)、ハワイ大学(アメリカ)のプログラムを企画しています。

更に英語について学びたいという要望に対応するため、昨年度より「グローバルコミュニケーション・イン・スペース」を開設しました。専門アドバイザーが常駐し、個別学修ブースやグループ学修スペースが設置され、語学留学や海外インターンシップ、英会話講座、奨学金情報、留学生との交流など、グローバル人材育成の支援をしています。

父母懇談会は、実際の大学キャンパスにおいて、ご子息の学修状況や学修環境を知ることができる、またとない機会です。ぜひ多くの皆様の参加をお待ちしております。

板倉校舎父母懇談会に参加して

板倉事務部 部長 吉田 邦子

板倉校舎父母懇談会は平成29年6月10日(土) 130名を超えるご父母の皆さまをお迎えし、盛況のうちに無事終了することができました。ご父母の皆さま、関係者の方々に改めて感謝申し上げます。

全体会開始前よりご来校いただき、学食で昼食を召し上がっていらつしやるご父母の方も多くいらつしました。全体会は、大学代表として、食環境科学部教授でもある大熊廣一常務理事の挨拶で始まりました。次いで生命科学部長・金子律子、食環境科学部長・林清をご紹介申し上げ、奥澤甫水会副会長よりご挨拶を頂戴いたしました。その後、(株)エービーシーエデュケーション チーフコンサルタントの山本みどり氏をお招きし「就職活動の現状と親子の接し方」と題してご講演をいただきました。近年の就職活動の現状を採用現場の具体例を取り上げながら伝えていただくとともに、親としての就職活動への係わり方、子供への接し方などを詳しくお話いただきました。近年は、学生同意のもと年に2

回保証人様宛成績表を送付させていただいておりますので、ご子息・ご息女の成績については把握しやすくなっているかと存じます。その分、ご父母の皆様のご関心は就職活動に重点が置かれているように感じております。そういった意味においても、今回の講演は関心を持ってお聴きいただけたのではないかと推察いたします。板倉キャンパスでは、資格を持ったキャリアアカウンセラ―2名がキャリア・就職支援室に常駐しており、低学年からのキャリア教育を推進しております。就職支援行事としては各業界を知るためのバスツアーやマナー講座、各種講演会など多数開催しておりますので是非、早い段階からキャリア・就職支援室へ足を運んでいただきたいと考えております。ご父母の皆様からもアドバイスのいただけると思います。

講演終了後は、学科に別れて学科説明、個別面談、キャンパスツアーを実施いたしました。学科説明については、昨年の実施で皆様より「時間が短い」「もっと話を聞きたい」といっ

たご意見をいただいておりますので今年度は実施スケジュールの調整を行い、30分にわたり、学科長より学科の教育内容を中心にご説明させていただきます。

また、個別面談においてもご父母の皆様は「せっかくの機会だから」、そして教員は「せっかくお越しいただいたのだから」と1組あたりの時間が延び、面談待ちの時間が長くなってしまうがちでしたが、こちらも面談は10分とすること、それ以上教員に確認したいこと等がある場合は全員の面談が終わった後、改めて面談することができるとお伝えし、教員も複数名で対応することでお待ちいただく時間を短縮することが出来たかと思っております。

キャンパスツアーでは生命科学科、応用生物科学科、食環境科学科のご父母の皆様には設備が充実した5号館(実験棟)を、そして健康栄養学科のご父母の皆様には100人分の大量調理が可能な給食経営管理室など特徴ある施設を中心にご案内させていただきました。

板倉キャンパスでは平成30年4月に大学院食環境科学研究科食環境科学専攻博士後期課程を開設いたします。これにより更なる教育研究の活性化が図られることとなります。

ご父母の皆様におかれましては引続き本学の教育研究活動と学生の活動に對しまして、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

朝霞校舎父母懇談会に参加して

朝霞事務部朝霞事務課 課長 野口 清司

朝霞キャンパスで6月10日(土)実施された、平成29年度父母懇談会は、天気に恵まれ、多くの参加者で賑わい盛況のうちに無事終了することができましたのは、ご父母の皆さま、関係者の方々のお陰であり、感謝申し上げます。当日は、就職講演会、学科説明、個別面談、キャンパス見学会と12・30・16・20までの短い時間ではありましたが、ご参加いただきましたご父母の皆さま方には、満足していただけたのではないかと考えております。

全体会は、朝霞キャンパス講義棟3階にあります。講314教室(収容526名)にて行なわれ、大学代表者として中原美恵副学長(ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻教授)、齊藤恭平ライフデザイン学部長、甫水会代表として阿部雅道会長が挨拶されました。続いてご父母の関心が非常に高い就職講演会では、本学理工学部生体医工学科の小島貴子准教授から、「就職活動の現状と親子の接し方」と題して講演をさせていただきました。小島准教授は、「キャリア教育と職業選択」

が専門分野であり、近年の採用スケジュールの変化や本学の学生気質を理解した上での貴重な話は、ご父母の皆さまの今後の指針になったのではないかと推察いたします。

就職関係の補足となりますが、朝霞キャンパスには、キャリアアカウンセラーを配置した、キャリア支援室、教職アドバイザーが学生を指導する教職支援室を設置しており、様々な就職支援行事、資格取得のための講座、教員採用試験対策講座、公務員対策講座など学生をサポートする体制を整えており、低学年からは是非とも利用・参加するようお願いいただければ幸いです。

講演終了後は、各学科・専攻毎に、教員による学科・専攻の説明及び個別面談を実施いたしました。お子様の大学生活や授業での様子、成績、資格取得、就職に関する質問など、教員との面談を通じて様々な情報を共有いただけたのではないのでしょうか。

ライフデザイン学部は、生き方、健康、く

らし、そして生活環境を創造する「ライフデザイン」とは何かを考え、より豊かな21世紀の生活と環境を実現するために、幅広い知識と実践を積み重ね、高度な専門性と総合的な視野をもった人材を育成しており、実習施設等を見学するキャンパスツアーの注目度が高くなっています。

見学は、介護実習室、入浴実習室、保育実習室、音楽実習室、実験工房棟や図書館をはじめ、体育館、テニスコート、人工芝グラウンドなどの体育施設など、学習環境や学生生活の場をご覧いただいています。

次年度以降は、学科・専攻別個別面談との時間調整を行ない、更に細やかな対応をしたと考えております。

朝霞キャンパスでは、教員・職員が一体となり、今まで以上に学生一人ひとりに細かなサポートができるキャンパスとしていく所存です。

平成29年度の父母懇談会が無事、開催できましたことを心より感謝申し上げ、今後もご父母の皆さまには、積極的に父母懇談会へご参加をいただき、大学への意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

赤羽台キャンパス父母懇談会を開催して

赤羽台事務部赤羽台事務課 課長 渥美 元康

平成29年6月18日(日)、赤羽台キャンパスではじめての父母懇談会を開催させていただきました。

赤羽台キャンパスは、平成29年4月に開設したばかりの、まったく新しいキャンパスです。設置された情報連携学部 (Information Networking for Innovation and Design : 通称 INIAD) では、コンピュータ・サイエンス教育を基盤とし、チームを組んでコンピュータを使いこなし、情報を通して連携し、素早くアイデアを形にできるような人材を養成しています。開設後間もないキャンパスのため、行き届かない点多々あったことと存じますが、当日は140名を超えるご父母の方にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご父母の皆様ならびに関係者の方々のご協力に厚く感謝申し上げます。

INIADでは、これまでの大学にはない新しいコンセプトの下、多くの授業において、大人数教室で講義を行うのではなく、少人数教室でディスカッションやチーム学習を中心に行う方針を取り入れています。教室には黒板もホワイトボードもなく、学生はみな一人一人自分のパソコンを大学に持参して、インターネットを

通じて、事前に配布される教材や授業で出た課題に取り組んでいます。

また、従来の図書館を設置していない代わりに、本のない図書館であるメディアセンターで、学生は電子ブックや電子ジャーナルで調べものをしたり、グループで集まって学習したりするほか、紙の掲示板の代わりに、学生には必要な情報を、すべて校舎内のデジタルサイネージやメール等でお知らせしています。

さらにINIAD専用の校舎であるINIAD HUB1は、最先端のIoTビルディングであるとともに、建物自体がINIADのIoT教材にもなっており、教室や部室の鍵や照明、空調、ロッカー、エレベーター、各種のセンサーなどの様々な設備がインターネットに接続されていて、学生ひとりひとりを個別に識別するだけでなく、学生は定められているルールの範囲の中で、自分たちの環境をプログラミングによってより使いやすくしていくことができます。

父母懇談会では、こうした新しい教育や取り組みのコンセプトを、学部や校舎の総合プロデュースを行った坂村健学部長より紹介させていただき、その後、グループに分かれて施設見学会を行いました。

見学会では、教室で実際にプログラミングや音声入力で部屋の鍵や照明を操作するデモンストラレーションのほか、メディアセンターやデジタルサイネージ、プログラミングによって制御するインテリジェントロッカーや、3Dスキャナや3Dプリンタなどコンピュータを使ったものづくりを行うMaker's Hubの見学を行いました。

短い時間ではありましたが、INIADの教育内容とキャンパスの特徴の一端に触れていたことができたのではないかと思います。

こうした新しい取り組みは、大学内だけではなく、他大学や産業界、海外からも注目を集め始めており、まだ開設半年にも関わらず、すでに国の補助事業や、複数の企業との共同研究もスタートしています。

しかし一方で、まだまだINIADは一年生しかいない未完成の学部です。INIADの教育研究の推進とともに、学生や赤羽台キャンパス自体もどんどん成長していかなければなりません。そのために、学生の学習支援やキャリア支援体制の検討に加え、サークル活動や大学祭など学生生活の支援や、教育のための施設設備のさらなる充実も進めているところです。

我々教職員一同、ひとりひとりの学生とともに、INIADという新しい学部、そして赤羽台キャンパスという新しいキャンパスを成長させていくために、これからも精一杯新しい取り組みを進めていく所存ですので、ご父母の皆様におかれましては、ぜひ引き続きご理解とご支援を賜りますよう、そしてまた来年も、成長しつづけるINIADをご覧いただくために、赤羽台キャンパスの父母懇談会にご出席いただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

「学部別父母懇談会及び

全国各地の支部総会に参加して」

東洋大学浦水会副会長 荻野 雅彦

「学部別父母懇談会」

今年度の学部別父母懇談会は6月10日(土)に朝霞板倉キャンパス、6月11日(日)に白山・川越キャンパス、そして6月18日(日)には本年度4月に開校した赤羽台キャンパスと、三日間五か所での学部別父母懇談会の開催となりました。私が顔を出させていただいた板倉、白山、赤羽台の各キャンパスはいずれも盛況で、ご父兄の方々の関心の高さを感じることが出来ました。特に白山キャンパスでの父母懇談会全体会では、メイン会場の5号館井上田了ホールには参加者全員が入りきれず、別会場も急遽用意しモニターを使用しての対応となりました。キャンパスツアーや井上記念博物館の見学等も親としてはこういった機会でないかと子どもたちが日ごろどういった環境で勉学に励んでいるのか知りえず、非常に良い体験であったと思います。各キャンパスともご夫婦で参加されている方が多くみられました。また就職講演ではメモを取りながらという光景も多くみられ、就職活動に対する関心の高さを改めて実感すると共に、ご子女との新たな会話のきっかけになる事を期待しました。

「全国各地の支部総会」

私は今回新任の本部役員として初めて浦水会の全国各支部の総会並びに父母懇談会に参加させていただき非常に貴重な体験となりました。

私が本部役員という立場で最初にお伺いしたのは地元の埼玉県北支部でした。一昨年支部長を仰せつかった経験から総会の立場が変わり本部役員という事で多少緊張した面持ちでの参加となりました。近年埼玉県北支部の歴代支部長は私も含め男性の方が務めてこられていましたが、新年度は女性の方が支部長に選出され、男性では気付かない、気が回らない女性目線での支部運営に大いに期待したいと思いました。

次にお伺いしました群馬県支部総会は講演会・懇親会等は無く総会のみで開催だったにもかかわらず、多くのご父兄にご参加いただきました。事業報告にありましたが、群馬県は板倉キャンパスの所在地という事もあり、学園祭『雷祭』に対してご協力をいただいております。また県内の就職情報をテーマとした就職講演会を開催したりと、役員の方々の気概や責任感、個人的見解ではありますがご父兄の方々の県民意識の高さがベースにあるような感じも受け、首都圏の支部とはまた少し違った雰囲気を感じることが出来ました。

3番目にお伺いした香川県支部総会は8月6日(日)、台風が接近中という状況での開催となりました。ホテルの玄関には洪水に備えてたくさん土嚢が積んであるのが印象的でした。総会前の父母懇談会では、大学の近況報告という事で生命科学部長の

金子先生がご説明されていましたが、四国から見る東京、そして東洋大学とはどう感じたのでしょうか？皆さん興味深そうに話に聞き入っていました。懇親会は徳島県支部との合同開催でした。首都圏在住のご父兄と違い、四国から東京へ子どもを送り出す親としてはひとり生活の心配や生活習慣の違い、また経済的負担の大きさや大学の情報の乏しさといった様々な心労があるだろうと推測していましたが、ご父兄の方々は全然そんな内容を話題にする人は無く、子どもに対する厳格さ、また大学に対して建設的なご意見、ご要望、アイデア等を伺え、ご父兄の逞しさに圧倒されるそんな懇親会でした。

最後4番目にお伺いした札幌・函館支部総会は、芸能人の札幌ドームコンサート、北海道マラソン、そして夏休み終盤の観光旅行客等が重なり、千歳空港はごった返すほどの人にあふれていました。総会は滞りなく開催され、本年度開設されました赤羽台キャンパス情報連携学部学部長の坂村先生にお話を聞くことが出来、父兄の皆さんも興味深そうに話に聞き入っていました。懇親会では、若い人達は東京にあこがれ出ていくが、大学卒業後なかなか地元北海道に戻って来てくれないといった嘆きの話を聞き、社会問題となつてくる東京一極集中地方の過疎化の発端はまさにこの大学生の就活から始まるんだなあ、首都圏に住んでいるとわからない、そんな問題をしみじみ感じる機会となりました。

支部総会の準備から開催までご協力ありがとうございました。また浦水会事務局・大学職員の皆様、お忙しい中、準備設営にご尽力いただき、滞りなく無事支部総会を終える事ができました事をこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

「奨学金を

とりまく状況について」

学生部学生支援課 課長補佐 吉野 将史

東洋大学学生部では業務が4つに分担されており各担当が日々の業務を行っています。一般的な学生部のイメージとしては、サークル・課外活動の活動補助や学園祭などの補助を行う課外活動担当、運動部（強化部・準強化部）補助や2020東京オリンピック・パラリンピック関係の業務を行っている運動部担当などでしょうか。他にも障がいのある学生の支援を行うバリアフリー推進室、そして私も担当の一人となっている奨学金及び学内のグローバル化に伴い増加している留学生などを担当する厚生業務も学生部の業務となっています。

学生の保護者の皆様にはある意味では密接に関わりがあり、近年はその無償化への動向がニュースをにぎわす授業料（学費）ですが、現在は奨学金を利用しているという学生が多く在学しています。本学では給付型奨学金として東洋大学第2種奨学金が独自の経済支援型奨学金として設置されており、経済状況の困難な学生の援助を行っています。また、最も多くの学生が利用しているのは貸与型の日本学生支援機構奨学金第1種奨学金、第2種奨学金で本学でも全学生の約3人に1人が利用している状況です。

その利用学生数が示すとおり、今や貸与奨学金を利用し大学に通う学生も一般化しており、それが故に大学側も業務内容を含めて、色々と考えなくてはいけない事項ができています。

日本学生支援機構奨学金（JASSO）は、今年度より一定の成績基準や家計状況をクリアしていれば、希望する学生はほぼ全員が貸与可能となりました。奨学金を希望する学生は今までよりもより利用しやすくなるように制度が変更されています。貸与を受けるための条件が実質的に緩和され、学生時代の学費や生活費をまかなうためのハードルが下がり、より良い学生生活が送れるようになるための基盤が充実したと考えられるかと思っています。現在、日本は好景気が続いているといわれているものの、実際は非正規雇用などかつてよりも低賃金・不安定な雇用が増えており、結果として毎月の返還に支障をきたすことも増えてきているという報道を耳にすることも多くなりました。このことにより、大学卒業後に学生時代に利用した奨学金の返還に苦しむ方が増えていることが問題とされています。

日本学生支援機構から大学側にも、卒業後の返還対象者の延滞率が伝えられ、卒業後の返還手続等の説明（様々な事由により、予定通り返還をすることが困難になった場合の諸手続方法を含めて）を在学中にしておくことを強く求められるようになってきています。学生である間の金銭的な負担を出来るだけ軽くし、より良い学生生活を過ごせるようにすることが目的であるはずが、卒業後のことを考えるがあまり奨学金の月額の抑制や奨学金を選択せず、結果としてアルバイトと勉学と課外活動とのやり取りに四苦八苦する学生も増えているようです。大学側は、大学生活を充実させるため、アルバイトをある程度押さえ奨学金でその分をまかなうという考え方の学生に対して、どこまでが利用の適性範囲なのか、質問を受ける各担当も学生の状況により画一的に回答することは難しく、悩みはつきません。

大学を含む高等教育授業料無償化についての動向はまだはっきり先が見えておらず、大学在学中は無償とし卒業後所得に応じて納付するという新制度案も財源も含め実現に向けては未だ道半ばというところのようです。また、給付型奨学金も残念ながら希望する学生全てをカバーできるものでもないのが現状です。まずは、悩み、相談事などがありましたら、学生生活担当窓口に行くようにお伝えください。学生が学業や課外活動にできるだけ専念し、より充実した学生生活を送れるように保護者の皆様につきましてもご協力、ご理解いただけますようよろしくお願いします。

就職関係

就職・キャリア支援部 部長 石井 健一

はじめに

平素より、就職・キャリア支援部の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年度も6月から8月にかけて、各キャンパスで「父母懇談会」、全国26会場での「地区別父母懇談会」が開催され、多くの皆さまにご参加いただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

日本経団連の指針による企業側の採用活動は、「3月広報活動解禁・6月選考活動解禁」と、今年度も昨年度と同じスケジュールで動きました。ただ同じスケジュールと言っても、企業の中には昨年度より選考スケジュールを少し早めたケースが多々見られました。

また近年は3年生向けを中心にインターンシップを実施する企業が増加し、それに伴い学生も「就職活動の前段としてインターンシップに参加する」ことが、普通になつてきております。

こうした微妙な変化とそれに対する私共就職・キャリア支援部の取組みを、毎年の父母懇談会での講演や面談等を通じて、今後も皆さまにお伝えできればと考えております。

以下、現4年生の状況と、これから就職活動が本格化する現3年生の状況、最後に低学年からの準備などについてお伝えいたします。

4年生の就職状況について

就職内定率につきましては、現在調査中です。今年度の途中報告としましては、経団連の指

針どおり6月に選考をスタートした企業は全体の中では一部で、多くの企業はそれより早い時期に選考を開始し、6月以前に内々定を出した企業もありました。企業の採用意欲も高めに推移し、早い時期に複数企業から内々定を得て選択に迷う学生も見受けられました。

しかしまだ多くの学生が進路決定に向けて活動をしています。3月まで例年企業からの求人は届きますので、最後まで諦めず、粘り強く活動を続けることが大切です。

特にこれからは、

- ① 本学求人ナビの求人情報の活用
- ② 本学への来訪された企業の求人情報の活用

- ③ 内定直結型の「マッチング会社説明会」等の学内求人イベントの活用

をお勧めします。

お子様には、ぜひ各キャンパスの就職支援室の活用と、職員・相談員による個別相談を利用するようにお伝えください。

なおイベントのお知らせは、学生向けポータルサイト「ToyoNet-Gの就職情報」の他、掲示・学内放送・DMなどで行っています。

3年生の就職状況について

現在、本格的な就職活動に向けて準備をするための「就職活動支援セミナー」が進行中です。次年度も経団連の指針による企業側の採用活動スケジュールは変更無しですが、選考等で各企業の動き出しは更に早くなる事も予測されます。従って、大学で実施するセミナーに早くから参加し、社会の状況を把握するとともに、就職活動全体の流れと対策を把握することが大切です。

セミナーでは、ワークも交えながら、採用試験に必要なエッセンスを修得します。具体的には、自分の将来と就職活動を結びつける自己分析や、企業の見つけ方、エントリーシートの書き方、模擬面接、人事担当者の講演など、多岐に渡る内容です。また、業界・職種研究、SPI・一般常識テスト・Webテスト対策、ビジネスマナーなどのイベントも平行して実施します。

現時点で具体的な希望進路を決めていない学生も、公務員・教員を希望する学生も、これらのセミナーに参加することを奨励しています。自立した大人として社会で働くための準備に、きつと役立つと考えています。

1・2年生からの就職準備について

本学では、入学と同時に全学生を対象に基礎力テスト「PROG」を実施しています。これは大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向を客観的に把握するためのテストです。このテストは3年生の4月に再度行いますので、2年間の成長を自ら確認するとともに、自身の強みを活かした就職活動のための一助ともなります。

また公務員については、早くからの準備が必要となります。低学年対象の「公務員試験準備ガイダンス」「公務員試験準備講座」等を学内で実施していますので、お子様にお勧めください。

就職活動をスムーズに進めるためには、低学年から意欲的・積極的に学生生活を送ることが重要です。ゼミや国内外のインターンシップ・ボランティアなど多様な経験にチャレンジするよう促していただければ幸いです。

最後になりますが、これからも保護者の皆さまのご支援を、よろしくお願い申し上げます。

納付金(学費等)について

経理部財務課

I 納付金の納入方法と時期

毎年、納付金の納入にご協力いただきましてありがとうございます。

納付金について、電話等での問い合わせ内容を中心に説明いたします。

納付金振込用紙は、学年末に次の学年に必要な金額を記載し、お送りします。

① 納付金振込用紙の郵送先

第一部：保証人住所宛てに郵送

第二部：本人または保証人住所宛てに郵送
(郵送先は入学時に選択した宛て先)

② 納付金の振込方法

大学より郵送されたその年度の指定振込用紙をご利用ください。それ以外(銀行備え付けの用紙やATM等)での振込はご遠慮ください。

また、大学での現金による受付はしておりません。

③ 全納と分納

振込用紙には「全納」と「分納」の用紙があり、振込時に選択してください。

全納：年間必要額を一括して納入

分納：年間必要額を春学期と秋学期の二回に分けて納入

分納を選択された方の秋学期用振込用紙は、

秋学期納入時期に大学より郵送します。

④ 納入期間

・春学期 四月一日～四月二五日
・秋学期 十月一日～十月十五日
※納入期間は各年度の曜日により変動します。
振込用紙記載の期間内にお振り込みください。

II 納付金の内訳

納付金は、「学費」と「その他の費用」に区別されます。

①「学費」には、入学金・授業料・一般施設設備資金・実験実習料・教育充実料が含まれます。

(実験実習料・教育充実料は該当する学部・学科のみ。)

②「その他の費用」は次のようになります。

・雨水会費
・学生課外活動育成会費

III 学籍異動に係る納付金について

休学・原級・退学等、学籍異動時には必要な納付金が変わります。

休学：休学期間中の一般施設設備資金の半額、およびその他の費用が必要となります。

原級：四年生で原級する場合、当該年度の正規四年生の納付金と同額になります。

なお「異動許可願」が受理された日より学籍異動の効力が発生する日付が異なります。

申請手続きについて不明な点等は、各学部教務課等にお問い合わせください。

IV 納付金についての問い合わせ先

振込用紙の未着や紛失、支払額の詳細など、納付金に関するお問い合わせやご相談はテレフォンガイドを参照願います。また、東洋大学ホームページでも詳細をご覧になれます。

南水会活動

平成28年度南水会活動報告

(平成29年度評議員会資料抜粋)

平成28年度事業報告

東洋大学南水会は、昭和34年1月父兄会として設立されてから今日に至るまで、「東洋大学学生の父母又は学生の保護者相互間の連絡を密にし、大学の興隆発展に協力するとともに、大学と協力して学生の心身の健全な発達を図ること」を目的としており、今年度で創設57年目を迎えることとなります。また、平成27年度より、南水会として大学の掲げる目標及び事業を支援するため、大学との連携と協働のもと、事業分野を拡大し各種事業を実施しました。

特に、従来南水会主催のもとで南水会会員を対象に実施していた父母懇談会を大学の主催に改め、父母を含む全保証人を対象に実施したことにより、大学代表教員による「大学の現況」および就職関連の説明内容の充実が図られたことは大きな成果であると思われます。

東洋大学が平成24年に、「諸学の基礎は哲学にあり」の理念を基礎として、創立125周年を記念して発出した「国際的に優れた水準の大学を目指す」といった「未来宣言」の実現、さらには、平成26年に採択された「スーパーグローバル大学創成支援プログラム」の目的であるグローバル人材の育成の一助となるよう、平成28年度は、大学との連携と協働の基本方針のもと、さらなる充実を目指して南水会の事業を展開してまいりました。

以下、去る平成28年5月の評議員会で承認された事業計画に基づき執行した1年間の事業実施概要を報告いたします。

本部事業関係

1. 諸会議及び行事

【諸会議】

(1) 評議員会

平成28年5月28日14時より東洋大学白山キャンパス8号館125記念ホールにおいて、会則第21条に基づき開催され、評議員70名が出席して、議長、副議長選出、議事録署名人を選任後、議案について審議を行った。

(2) 理事会

常任理事と地区長理事で構成され、会則第4章役員第8条に基づき、開催された。

① 平成27年度

第2回理事会

第3回理事会

② 平成28年度

第1回理事会

(3) 常任理事会

会則第4章役員第9条に基づき、月1回の定例会議（但し、7・8月は除く）を開催し、業務を執行した。

① 平成27年度

第9回常任理事会

第10回常任理事会

② 平成28年度

第1回常任理事会

第2、3回常任理事会

第4回常任理事会

第5回常任理事会

第6回常任理事会

第7回常任理事会

第8回常任理事会

(4) 常任理事会内委員会

必要に応じて業務を執行した。

(5) 役員選考委員会

会則第4章役員第6条に基づき、全国56支部より選出し、次期役員候補者を選考するため、平成29年1月21日に開催した。

(6) 地区別支部長会議

会則第10章第39条に基づき、平成28年2月に本部主催で関東15支部・甲信越3支部・北陸2支部が平成28年2月4日、北海道5支部・東海4支部・九州8支部が2月18日、東北6支部・近畿4支部・中国5支部・四国4支部が2月25日に本部・支部活動の円滑な連携と地区の活性化を目的とし、会議を開催した。

(7) 全国56支部長研修会

平成28年10月1日、本部主催で全国56支部長（代理色の参加による、「南水会諸規程」及び「支部関係業務処理に関する取扱い」を主とした支部長研修会を開催した。

(8) 父母懇談会

学生が在籍する校舎（白山、川越、朝霞、板倉）ごとに「学部別父母懇談会」が6月に実施され、大学教職員による「履修・成績及び学生生活・就職」等について説明及び個別面談が成された。関東地区以外支部は「地区別父母懇談会」として開催された。

【行事】

(1) 父母懇談会

① 関東地区15支部（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県、栃木県）の会員は、学生が在籍する4校舎（白山・川越・板倉・朝霞）で開催された。

支部名／日時・校舎	支部コード	6月26日(日)白山校舎	6月19日(日)川越校舎	6月18日(土)朝霞校舎	6月18日(土)板倉校舎	合計
茨城	0801	33	26	7	31	97
栃木	0901	16	13	0	35	64
群馬	1001	16	21	3	19	59
埼玉北	1101	13	15	0	4	32
埼玉中	1102	29	48	4	5	86
埼玉東	1103	33	8	5	10	56
埼玉南	1104	65	56	7	14	142
千葉東	1201	103	7	4	0	114
千葉西	1202	67	17	6	4	94
茨城東	1301	42	1	4	3	50
茨城西	1302	51	8	11	1	71
中央	1303	31	3	4	2	40
城北	1304	45	16	14	4	79
多摩	1305	70	19	11	4	104
神奈川	1401	97	13	12	2	124
関東地区以外		65	39	23	22	149
会員以外		45	0	0	0	45
出席者合計		821	310	115	160	1406

② 関東地区以外41支部

全国41支部については、大学主催の「地区別父母懇談会」として、全国26会場にて開催し、参加者は726名であった。大学教職員及び本部役員が出張し、「履修・成績及び学生生活、就職」等について説明・面談を実施した。

(2) 会員の集い・就職フォーラム

会員相互の親睦を深め、就職関係の充実を図ることを目的とし、白山キャンパス井上円了ホールにおいて10月30日(日)に開催した。午前中2回に分けて白山キャンパスツアーを実施し、午後からは、東洋大学竹村牧男学長お

よび、浦水会唐木重典会長からの挨拶の後、就職フォーラムが実施され、(株)NTTデータ経営研究所取締役唐木重典氏より、『就職活動における父母の苦勞と果たすべき役割について』と題した実践的な講演がなされた。次いで、前年度就職の卒業生、北原舞さん(国際地域学部)、河野聖さん(ライフデザイン学部)、名嘉英仁さん(理工学研究科)、田代麻菜美さん(生命科学部)の4名と、浦水会会長、副会長2名によるパネルディスカッションが行われ、就職活動内容やインターシップでの就職体験などについてより具体的な意見が交わされた。最後に、就職・キャリア支援課中村健司課長による大学の就職支援体制についての質疑応答がなされた。平成28年度の参加者は、615名であった。なお、過去7年間実施した結果は、平成21年度は546名、22年度は330名、23年度は228名、24年度は472名、25年度は383名、平成26年度は516名、平成27年度は635名となっている。

2. 学生支援諸制度

- (1) 奨学金……「奨学生規程」に基づき、常任理事会において選考の結果、2名を採用した。
- (2) 弔慰金……「弔慰金規程」に基づき、会員の申請により6名に支給した。
- (3) 学生総合補償制度……1年生を対象とする「学生総合補償制度」の傷害保険への任意加入者は、249名であった。
- (4) 学生クラブ・サークル、学術研究等援助・表彰制度……「援助・表彰基準」により、1部体育会・2部体育会の団体の部5団体及び個人の部62名へ表彰状と褒賞金(192万円)を援助した。また、学生クラブ・サークル活動(運動部・文化部・学術研究サークル・ゼミ等)に対し、学生部と連携して申請が出された11サークルに(33万円)、スポーツ東洋新聞等広告掲載料として(18万円)援助した。また、顕著な活動が認められた、世界インフラアルペンワールドカップ大会海外派遣等へ(2万円)援助した。

- (5) 学生食堂朝食提供補助……平成26・27年度試験運用の実施結果を鑑み今年度も引続き申請に基づき、平成28年度7月春学期4キャンパス学生食堂にて、学生に期間限定で朝食提供補助891食数援助、及び1月秋学期は、644食数援助した。(374,400円)
- (6) 東洋大学社会貢献センター学内講座浦水会援助制度(新規)……平成28年度より新設の東洋大学社会貢献センター学内講座の実施に伴い、申請に基づき対象資格に合格した学生9名に對して援助した。(65,200円)なお、援助は、他学部との褒賞金とは重複しないことを前提とした。

3. 浦水会費の徴収・支部運営費の交付

- (1) 浦水会費の徴収
浦水会費は、1部の学生は入学時及び毎年授業料払込時に5,000円を徴収し、2部学生については、任意加入とし本部に納入された。
- (2) 支部運営費
① 支部運営費は、浦水会費を納入した会員の所属する、6月支部会員数1人当たり1,000円を乗じて算定した。さらに、1,000円を乗じて算定した。さらに、100,000円を加算し、本部から年1回6月に26,131名分を支部運営費として支出した。(30,731,000円)
1) 会員数×単価1,000円
2) 支部会員数定額加算(1,000名未満支部) 46支部×100,000円
② 支部開催事業(就職説明会、文化・体育活動等、その他主たる目的が会員親睦である活動以外の活動を目的とした支部行事)に對して、17支部主催行事に援助した。(1,199,776円)
③ 地区長主催で全国7地区において、地区別支部長会議開催に伴う会場費等の経費について、10万円を上限として本部において負担援助した。(461,568円)

4. 就職関係

就職説明会開催希望支部について講師派遣な

どを大学側と協議した。なお、大学教職員の支部就職説明会派遣に伴う旅費交通費等は大学側に負担をお願いした。

5. 大学事業（行事）に対する支援協働

会則に定める「目的及び事業」を達成するために、大学事業については積極的に援助・協働することを基本とし、浦水会事業計画に基づき執行した。

(1) 父母懇談会および浦水会支部総会同日開催に伴う経費

平成27年度より大学主催の「父母懇談会」開催に伴い、浦水会本部及び各支部が実施・運営に関して協働（連携・支援・協力）態勢とし、実施経費うち会場費等については、予算の範囲内にて浦水会が（5,435,088円）負担した。

(2) 父母専用相談窓口運営に伴う経費

平成27年度開設した父母専用相談窓口（父母ホットライン）の運営について、引き続き大学と協働して推進して行く態勢として実施し、65件の相談があった。

(3) 新入生父母に対する説明会実施に伴う経費

学部主催「新入生父母に対する説明会」（入学式当日に実施）について、大学との連携と協働のもとで、本部役員も参加のうえ、各学部父母ガイダンスを実施したが、援助金執行はなかった。

(4) 体育後援会に対する援助

スポーツ活動を支援するため、本部拠出金として援助した。拠出にあたって、事務運営を担っている校友会に対して、運営方法については是正対応を条件とした。（400万円）

(5) 「井上円了が志したものは」に対する援助

井上円了記念学術センターの企画・実施、実行委員会を構成、その運営費の一部（150万円）を負担援助した。なお、学部生については学長賞の次賞として、浦水会長賞が新設された。（1,147,000円）

(6) 卒業記念品

卒業記念品購入代金として大学・校友会・本会の三者負担による分担金（180万円）

を援助した。

(7) 全学的な行事に対する援助

白山祭（こもれび祭（川越）・朝華祭・雷祭（板倉）の4校舎の大学祭の実行委員会に対して援助金を支出した。（220万円）

さらに、川越、朝霞、板倉の3校舎で実施されたスポーツ大会に援助金を支出した。（32万円）

(8) 留学生団体等に対する援助

留学生連合会等団体の活動に対し（7万円）援助した。

(9) 学部行事等に対する援助

学生を対象とした学部行事・コンクール等において、優秀者に「浦水会会長賞」として授与した。具体的な内容は次の通り。

① 法学部新入生行事に対して、ポケット六法45冊を授与し、また法学部法律討論会および法学部ゼミ発表会に（161,006円）援助した。

② 国際地域学部の日本語・中国語弁論大会へ（40,000円）援助した。

③ 障がい学生支援ボランティア活動における功労者に対する表彰を行い、3年生13名へ表彰状を授与、4年生11名へ表彰状授与し、功労金（11万円）を支給した。

(10) 「東洋大学教育・研究協力資金」募金に対する協力

創立150周年に向けて国際的に評価される大学を目指した、「東洋大学教育・研究協力資金」に対して、平成26年度以降募金に協力している。平成28年度についても本部予算として「奨学事業の展開」へ100%充当の寄付（1,000万円）を行い、併せて各支部及び会員に対して、大学への募金の協力をお願いした。

(11) 会長施策重点支援事業費（名称変更）

社会貢献の一環として大学が進めている学生ボランティアに対する支援を行うべく、学部より申請のあった「熊本地震夏季ボランティア学生派遣」に対して、会長の考案により派遣支援として、ボランティア学生派遣者用Tシャツ（浦水会名入り）100枚を作製

授与した。（221,400円）さらに、平成27年度に引き続き、平成29年1月2日「東洋大学浦水会第93回箱根駅伝応援ツアー（日帰り）」を実施し、バス運行委託等の経費を支出した。参加者は36名で、一部経費負担として1人5,000円の参加費を徴収した。（389,800円）

6. 大学・校友会行事等に対する協力

大学・校友会が年間行事として実施する祭事等に、浦水会代表者を派遣・協力した。

(1) 大学・校友会行事に派遣、協力した。

① 平成28年4月6日 入学式

② 平成28年4月17日 2016年度新入留学生歓迎会

③ 平成28年5月21日 東洋大学校友会支部長会

④ 平成28年5月22日 東洋大学校友会校友大会

⑤ 平成28年5月27日 体育後援会第1回運営委員会

⑥ 平成28年6月6日 学祭

⑦ 平成28年10月9日 校友会「平和祈念の碑に集う会」

⑧ 平成28年11月5日 哲学堂祭

⑨ 平成28年11月26日 東洋大学経営学部開設50周年記念式典・講演会

⑩ 平成28年12月8日 川越体育会功労者表彰式

⑪ 平成28年12月25日 留学生連合会年末交流会

⑫ 平成29年1月17日 井上円了が志したものは表彰式

⑬ 平成29年2月8日 体育後援会第2回運営委員会

⑭ 平成29年2月23日 一部・二部体育会表彰式

⑮ 平成29年3月20日 校友会学生研究奨励基金授与式

⑯ 平成3月23日 卒業式

7. 広報活動

会員相互間の連絡を密にすることを目的として広報活動を実施し、「会員のしおり」及び「会報 東洋」の発送に伴う経費は、大学側にお願

支部事業関係

- (1) 新入会員対象の「会員のしおり」
平成29年1月発行
- (2) 全会員対象の「会報 東洋」
平成28年12月発行
- (3) 本部役員及び支部長対象の「浦水会ジャーナル」……平成28年4月発行・10月発行
- (4) 大学側にリンクした浦水会のホームページを通じて、情報活動を強化した。
- (5) 新会員（新入生のご父母）向けのリーフレット作成（新規）
新1年生に対して、浦水会活動の目的および行事に参加することのメリットをアピールして、身近なものとして感じてもらえるよう、新入生の父母会員向けのリーフレットを8千部作成して送付した。

8. 会員情報管理システム

浦水会本部では、大学と「個人情報」の提供に伴う個人情報の機密保持及び安全管理に関する契約書を締結し、会員情報の運用管理について適正な管理に努めている。

大学の教務部門のシステム情報を利用し、会費納入処理等を行っているほか、会員情報管理システムの運営管理については、平成26年度からは、卒業生・浦水会連携推進室に依頼しており、同推進室のデータ提供により、支部要請の宛名ラベルを浦水会本部で作成している。

宛名ラベル等の支部への提供に際しては、「個人情報保護法」に基づき適切に管理されるよう、引続き支部に対して協力をお願いしている。

ホームページについては、大学側ホームページにリンクし、大学の広報課と連携して、データ更新の円滑化と会員の閲覧の便宜性を確保している。

9. 会員の満足度向上と帰属意識昂揚のための施策

支部総会開催時に配布するために、浦水会手揚げファイルを10,000枚（766,800円）作成し、支部へ配布した。

1. 支部総会

平成27年度より大学主催の「父母懇談会」開催に伴い、関東地区支部は、従来通り支部総会は別途に独自開催し、関東地区以外の支部に於いては、原則として支部総会開催は一部の支部を除き、大学主催の父母懇談会開催日と同日の同じ会場で開催した。

- ① 支部総会……56支部 会員数26,131名
- ② 開催日……平成28年6月25日～9月11日
- ③ 出張者……浦水会本部代表者 延べ59名
- ④ 出席者……1,043名

2. 支部行事

就職説明会・講演・研修会等支部主催行事については、支部からの開催要望に基づき、日程及び派遣者依頼願いについて大学側と調整した。また、講演・研修会等の講師について、本学教員を希望する場合については、本部からの紹介を含め協力した。

実施支部は以下の通りであり、浦水会の支部主催行事援助金支給規程に基づき援助金を支出した。

①就職説明（懇談）会

月 日	曜	支 部	場 所	事務説明者（敬称略）	出席者数
7月16日	土	千葉県東	千葉市生涯学習センター	課長 中村 健司	63
16日	土	埼玉県北	埼玉グランドホテル深谷	課長補佐 萩原 剛志	64
24日	日	栃木県	コンセーレ	外部講師 山本 みどり	43
30日	土	茨城県	ホテルマロウド	外部講師 川田 英利	75
10月2日	日	群馬県	前橋商工会議所	外部講師 山本 みどり	98
11月3日	木	福島県	郡山市労働福祉会館	部長 石井 健一	64
13日	日	山形県	山形国際ホテル	課長補佐 須田 憲明	24
19日	土	秋田県	第一会館 本館	課長 中村 健司	30
27日	日	千葉県西	南行徳市民談話室	課長 中村 健司	34
27日	日	山梨県	アーヴァンヴィラ古名家ホテル	課長補佐 西澤 昌子	19
12月4日	日	宮城県	TKP仙台カンファレンスセンター	課長補佐 須田 憲明	14
4日	日	埼玉県南	武蔵浦和コミュニティセンター	外部講師 福島 直樹	113
10日	土	岩手県	アイーナ岩手県民情報センター	主任 早坂 充樹	14
10日	土	静岡県	男女共同参画センターあざれあ	課長補佐 萩原 剛志	118
11日	日	岡山県	岡山シティホテル厚生町	外部講師 井出 浩子	15
2月18日	土	神奈川県	横浜市大倉山記念館	外部講師 村井 忠寛	42
19日	日	埼玉県東	春日部商工振興センター	浦水会顧問 茂木 明男	34
合 計					864

②大学施設設備校舎見学会

月 日	曜	支 部	場 所	出席者数
10月22日	土	東京都城北	板倉校舎	28
11月5日	土	茨城県	白山校舎	39
26日	土	千葉県東	白山校舎	75
12月3日	土	栃木県	白山校舎・朝霞校舎	41
3日	土	群馬県	白山校舎・川越校舎	48
10日	日	東京都中央	川越校舎	19
合 計				250

③講演・研修会等

月 日	曜	支部	講演会・研修会等／内容	講演者（敬称略）／場所	出席者数
5月3日	火	大分県	全国大学選抜相撲宇佐大会応援	大分県宇佐市総合運動場	6
7月9日	土	東京都城東・城西・中央・城北・千葉西	「東洋大学創立130年の歩みと今後の展望」	東洋大学学長 竹村 牧男	118
9日	土	神奈川県	神奈川県支部1年生の保護者対象説明会	雨水会顧問 鳥越 剛他	19
10日	日	東京都多摩	「自立できる個人と組織の作り方」	(株)アスリートスタンダード 村井 忠寛	28
16日	土	埼玉県中央	「東洋大学学祖の井上円了に関する講演(井上円了の妖怪学入門)」	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授 三浦 節夫	43
23日	土	埼玉県南	「東洋大学ビジョン Beyond2020」	東洋大学常務理事 大熊 廣一	47
8月6日	土	神奈川県	「21世紀を働く子どもへ伝えること。伝えてはいけないこと。」	東洋大学理工学部生体医工学科准教授 小島 貴子	48
10月10日	月	島根県	第28回出雲全日本大学選抜駅伝応援ツアー	出雲大社～出雲ドーム等	20
10日	月	広島県	第28回出雲全日本大学選抜駅伝応援ツアー	出雲大社～出雲ドーム等	28
15日	土	埼玉県東	見学研修会	埼玉伝統工芸会館他	33
22日	土	東京都城東	研修会 紅茶教室	ティーインストラクター 大野 久美子	25
11月5日 6日	土 日	石川県 福井県	第94回全国学生相撲選手権大会応援観戦	両国国技館	10
6日	日	東京都中央	第94回全国学生相撲選手権大会応援観戦	両国国技館	20
6日	日	神奈川県	第94回全国学生相撲選手権大会応援観戦	両国国技館	41
12日	土	埼玉県北	日帰り親睦研修旅行	わたらせ渓谷鉄道、吹割の滝等	21
13日	日	東京都多摩	秋の箱根ひとときを！箱根駅伝ミュージアム見学	小田原城、箱根駅伝ミュージアム	53
19日	土	東京都城西	日帰りバスツアー「河口湖セミナーハウス見学と世界文化遺産富士山構成資産」	河口湖セミナーハウス	27
23日	土	埼玉県南	研修旅行(群馬県方面日帰りバス旅行)	榛名神社、こんにゃくパーク等	40
26日	土	埼玉県中央	日帰り研修バス旅行	江の島、鎌倉鶴岡八幡宮等	60
1月2日	月	山梨県	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	往路ゴール付近	22
3日	火	茨城県	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷公園、日比谷門前	20
3日	火	埼玉県東	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷公園前、日比谷通り	43
3日	火	埼玉県南	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷公園、日比谷花壇前	25
3日	火	千葉県西	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	大手町バシフィックセンター横	30
3日	火	東京都城西	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷	11
2日 3日	土 日	神奈川県	第93回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	横浜駅東口、藤沢橋、箱根湯本駅前等	56
6日 ～9日	土 日	青森県	第89回 日本学生氷上選手権大会(インカレ日光大会)応援	白鳥王子アイスアリーナ等	3
28日	土	東京都城東	バス研修会	鴨川セミナーハウス	28
28日	土	東京都中央	新春特別企画「トリプルメダリスト・萩野公介選手の成長と挑戦について」	萩野選手フィジカルコーチ、雨水会顧問 茂木 明男	38
2月5日	日	千葉県西	湖畔美術館見学とドイツ村イルミネーション鑑賞	市原湖畔美術館、ドイツ村等	50
3月5日	日	東京都多摩	立川シティハーフマラソン応援と懇親会	立川市付近	26
合計					1,039

雨水会収支関係

雨水会費……………	年額 5,000 円	
第 1 部会費徴収数	25,854 名……………	129,270,000 円
第 2 部会費徴収数	446 名……………	2,230,000 円
合 計	26,300 名……………	131,500,000 円

平成 28 年度会計報告

平成 28 年度決算は、4 月および 5 月に開催されました理事会・評議員会において、承認されました。

平成28年度一般会計決算報告書

自平成28年4月1日～至平成29年3月31日

貸 借 対 照 表

平成29年3月31日現在

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
(流 動 資 産)	(115,044)	(流 動 負 債)	(483)
現 金	80	前 受 金	320
普 通 預 金	114,959	預 り 金	42
郵 便 振 替	5	未 払 金	121
(固 定 資 産)	(14,000)	正 味 財 産 の 部	
雨水会記念事業積立金	14,000	次 年 度 繰 越 金	114,561
		特定資産次年度繰越金	14,000
合 計	129,044	合 計	129,044

一般会計収支計算書

自平成28年4月1日～至平成29年3月31日

(単位:千円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
雨 水 会 費 収 入	131,500	事 業 費	88,154
雑 収 入	687	管 理 費	14,951
投 資 活 動 収 入	0	投 資 活 動 支 出	3,000
前 年 度 繰 越 金	88,479	次 年 度 繰 越 金	114,561
合 計	220,666	合 計	220,666

平成29年度甫水会活動計画

(平成29年度評議員会資料抜粋)

平成29年度事業計画

本部事業関係

1. 諸会議及び行事

【諸会議】

(1) 評議員会

東洋大学においては、平成24年に、「諸学の基礎は哲学にあり」の理念を基礎とし、創立130周年を迎える平成29年度には、「TOYO GLOBAL DREAMS」構想における平成28年度までの実績が評価されることとなり、さらに、新学部・学科の設置もあいまってキャンパスの国際化はこれまで以上にいっそう進展が図られています。

「東洋大学は世界標準の教育と研究、社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学を目指す」といった「未来宣言」の実現を目指し、ワールドクラスの大学への道の第一歩を踏み出す年と位置づけられています。

東洋大学甫水会は、昭和34年1月父兄会として設立されてから今日に至るまで、「東洋大学学生の父母又は学生の保護者相互間の連絡を密にし、大学の興隆発展に協力するとともに、大学と協力して学生の心身の健全な発達を図ること」を目的としており、今年度で創設58年目を迎えることになりました。また、平成27年度より、甫水会として大学の掲げる目標及び事業を支援するため、大学との「協働」のもと、事業分野を拡大し、各種事業運営を見直しました。会員にとって今まで以上に大学を身近に感じていただくとともに、会員の声に真摯に耳を傾けることにも注力いたします。このような背景のもと、平成29年度も引き続き、大学との「協働」「連携」の基本方針のさらなる充実を目指して、甫水会の事業を展開してまいります。

以下、平成29年度甫水会事業計画の概要を説明いたします。

【諸会議】

(1) 評議員会

常任理事及び全国56支部長と1,000名以上の会員を擁する支部選出の評議員とで構成され、会則第21条の重要項目に関して審議を行う最高議決機関であり、定例会として年1回5月に開催する。

(2) 理事会

常任理事と地区長理事で構成され、本会運営の基本業務について常任理事会の執行事項の確認・承認を行う機関であり、定例会として年2回10月及び翌年4月に開催する。

(3) 常任理事会

原則として、毎月1回開催する（7・8月は除く）。

本会運営の基本的業務について、評議員会・理事会等で決定した事業計画を円滑に執行する。

(4) 常任理事会内委員会

必要に応じて委員会を開催し、業務を執行する。

(5) 役員選考委員会

次期役員候補者を全国56支部より推薦していただき、1月に役員候補者の選考を行う。

(6) 地区別支部長会議

全国10地区において地区長主催で、本部・支部活動の円滑な連携と各地区組織の活性化を目的とし、地区別支部長会議及び実務研修を2月に実施する。

(7) 全国56支部長研修会

本部主催で全国56支部長の参加による会議及び実務研修を9月に開催する。

【行事】

(1) 父母懇談会

平成27年度より、甫水会主催で実施して

いた甫水懇談会の内容を充実させる為、大学主催による父母懇談会として実施する。

甫水会本部及び各地方支部が実施・運営に

関して協働（連携・支援・協力）する。

関東地区（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県）支部の会員は、学生が在籍する校舎（白山、川越、板倉、朝霞、赤羽台）で大学教職員による「履修・成績及び学生生活・就職」等について説明・面談を6月に実施する。また、前記以外の全国の支部については、6月から8月に全国26会場で実施する。

(2) 会員の集い・就職フォーラム

会員相互の親睦を深め、就職関係の充実を図ることを目的とし、10月に実施する。講演内容として、魅力ある講演者・テーマ等を選択し参加者の増員を図る。なお、遠隔地支部会員については、規定額の交通費を補助する。

2. 学生支援諸制度

(1) 奨学生制度

会員が不測の事故等で家計が急変し、修学が困難となった学生に対し、規程により常任理事会の議を経て、原則として月額3万円の奨学金（予算20名分）を1年間給付する。なお、予算の範囲内でより多くの学生に給付する事を目的とし、東洋大学奨学金との併用は、制限するものとする。

（これまで実施していた、大学の推薦による留学生対象の奨学金については、甫水会としての役割を終えたものとして、平成27年度で終了）（720万円）

(2) 学生クラブ・サークル、学術研究等援助・表彰制度

学生クラブ・サークル活動（運動部、文化部、学術研究サークル、ゼミ等）に対して、学生部と連携して、広く援助又は表彰する。援助及び表彰を通じて、活動の奨励を図る。

学生クラブ・サークルに該当しない学生団体及び個人についても対象とし、顕著な活動が認められ、大学から特段の要請があった場合について援助又は表彰する。（750万円）

(3) 国際化の支援(新規)

大学の国際化の支援の一環として、外国人留学生と日本人学生のコミュニケーションとグローバルワーク等の関るイベントに対する支援を行う。大学の交流イベントを協賛、補助する形で外国人留学生が興味を持って、日本の衣食住、文化芸術に関する講演会の実施などを行う。(100万円)

(4) 就職活動支援(新規)

①予算に限りがあることを考慮して、家計急変者等に対象を限定し、奨学金の補てんを趣旨とした支援を行う。経済的困窮学生の選考評価が難しいことを踏まえて、浦水会の奨学金受給者及び東洋大学第2種、3種奨学金の受給者を対象とし、大学の奨学金説明時に併せて広報するなど、周知の時期や広報の仕方を併せて工夫する。(200名×②2万円×400万円)

②就職活動を行う学生全体に対して、就職活動に活用できるグッズ(大学独自の履歴書、筆記用具、バインダー等)を作成して配布を検討する。(100万円)

(5) 学生の食育支援

平成29年度も引き続き申請に基づき援助する。新生生の食育の一環として、食環境科学部の協力を得ることとする。

①新生生を対象とした朝食支援は引き続き実施する。(200万円)

②食環境科学部より、平成28年度の卒業生に管理栄養士等の資格取得者を輩出することを踏まえ、教育支援のほか学生の食育指導事業に対して支援を行う。併せて、サラダバーなどの一品補助についても、関連企業や父母等からの供出募集対応など体制作りを図る。(400万円)

(6) 東洋大学社会貢献センター学内講座浦水会援助制度

平成28年度より新設の東洋大学社会貢献センター学内講座の実施に伴い、申請に基づき広く褒賞金を支給する。支給にあたっては、他学部との褒賞金とは重複しないものとし、予算の範囲内で学生1人当たり年度1回とす

る。(150万円)

(7) 弔慰金制度

不測の事故等で会員又は会員のご子女が死亡した時、その遺族に対して弔慰金3万円を支給する。

(8) 学生総合補償制度

1年生対象の任意加入、学生総合補償制度の案内を東洋大学の子会社であるキャンパスサービスに委託して実施する。なお、引き続き、周知方法・時期を工夫する、補償内容を見直す等の改善により、加入者の増加を図ることとする。

3. 浦水会費の徴収・支部運営費の交付

(1) 浦水会費の徴収

浦水会費は、1部学生については、大学に代理徴収を依頼し、入学時及び毎年授業料払込時に5,000円を徴収する。2部学生については、任意加入として本部に納入する。

(2) 支部運営費の交付

①支部運営費は、支部会員数による傾斜配分を改め、所属会員数1人当たり1,000円を乗じて算定する。さらに会員が1,000名未満支部については100,000円を加算し、本部から年1回6月に各支部に交付する。(3,310万円)

②支部運営費については、講演会、校舎見学等、その実施目的が会員の親睦のみに限定されない支部開催事業(支部行事)に対して充てられるものとし、原則として支部予算の範囲内で実施するものとする。ただし、支部予算では賄えない場合で、やむを得ないと認められる場合に限り、支部からの申請に基づき、本部において審議のうえ、年度中10万円の範囲内で交付金を支給する。

③別途、就職説明会、文化・体育活動の支部主催応援行事等については、支部会員全員に周知することを前提に支部からの申請に基づき、年度中10万円の範囲内で援助する。なお、援助にあたっては、繰越金等の支部の収支状況を考慮して、援助の有無、援助

金額について審議する。(350万円)

4. 就職関係

(1) 就職関連講演会等の実施

本部または各支部で実施する就職関係講演会等行事については、6月から実施する父母懇会の内容を踏まえた上で、実施時期、講演者、講演内容を検討する。

行事内容の策定及び講演者の選定については、父母のニーズに合致しているか等効果を考慮するとともに、実施に際しては、浦水会事務局を通じて大学における就職関連担当部署(就職・キャリア支援部等)の意見及び推薦を踏まえることとする。

(2) 大学の就職支援体制等のプレゼンツールの作成(新規)

パワーポイントで作る動画プレゼンテーション(PIP Maker)を導入する。就職、国際化を中心に関連部署に依頼して、動画を組み込んだナレーション付スライドを作成して、父母懇談会での説明ツールとして使用するほか、各支部に配布して支部行事の活性化を図る。(プレゼンに関する備品等含む150万円)

5. 大学事業(行事)に対する支援協働

会則に定める「目的と事業」を達成するため、大学事業については積極的に援助・協働することを基本としている。

(1) 父母懇談会開催および浦水会支部総会同日開催に伴う経費

平成27年度より大学主催の父母懇談会実施に伴い、浦水会本部及び各支部が実施・運営に関して、今年度も引続き大学との協働(連携・支援・協力)体制とする。特に、全国会場で実施する地区別父母懇談会並びに浦水会支部総会の実施経費のうち、会場費等については、大学関係部署との話し合いにより予算の範囲内で浦水会が負担する。(1,000万円)

(2) 父母専用相談窓口運営の設置

平成27年度に引き続き、父母専用相談窓口

(父母ホットライン)の運営について、大学と協働して推進する。

(3) 交換留学生等の受入れ支援 (新規)

大学の要請に基づいて、交換留学生を中心としてホームステイの受入れに協力支援する。受入期間や受入要件、謝礼等についての基準を明らかにするとともに、当面は、東京を中心とした関東地区で受け入れ態勢を確保することとする。(100万円)

(4) 新入生父母に対する説明会実施に伴う経費

学部主催「新入生父母に対する説明会」(入学式当日に実施)について、大学との協働のもとで支援充実を図り、必要な経費の一部について予算の範囲内で浦水会が負担する。(50万円)

(5) 体育後援会に対する援助

スポーツ活動を支援するため、校友会と本会とで構成される体育後援会に対する事業費の一部として、本部から拠出金を支出する。(400万円)

(6) 「井上円了が志したものは」に対する援助

井上円了記念学術センターの企画・実施、実行委員会を構成、その運営費の一部を援助する。(200万円)

(7) 卒業記念品

毎年度、卒業記念品購入代金として大学・校友会・本会の三者負担による分担金を支出する。記念品目については、関係部署と事前協議する。(180万円)

(8) 全学的な行事に対する援助

既存の4校舎における大学祭(白山祭、こもれび祭(川越)、朝華祭、雷祭(板倉)及び3校舎におけるスポーツ大会(川越、朝霞、板倉)について、援助金を支給する。(255万円)

(9) 留学生団体等に対する援助

平成29年度開設の赤羽台キャンパスについては、実施確定後、別途措置するものとする。大学の国際化が求められている今日、大学の活性化にも繋がる留学生連合会等団体の活動に対し広く援助金を支給する。(10万円)

(10) 学部行事等(ゼミナール単位での取組みを含む)

む)に対する援助

① 学生を対象とした学部行事・コンクール等において、優秀者に「浦水会会長賞」を授与する。

併せて、援助金を支給する。(50万円)

② ゼミナール単位における社会貢献活動、卒業生実務担当者と在校生の連携協力に対する支援を行う。

(国際地域学部島川ゼミにおける日航御巣鷹山事故に対する取組み等…50万円)

(11) 「東洋大学教育・研究協力資金」募金に対する協力

創立150周年に向けて国際的に評価される大学を目指した、①奨学事業の展開、②教育・研究活動支援、③学生課外活動支援、④教育研究施設・設備の拡充に係る募金の取り組みに対して、平成28年度に引き続き、平成29年度についても本部予算(案)としての寄付を行うとともに、各支部及び会員に対して募金の協力を促す。(1,000万円)

(12) 会長施策重点支援事業費

学生により近いところへの支援事業として、会長が考案した内容について、常任理事会での承認を得て支出するものとする。(100万円)

6. 大学及び校友会行事等に対する協力

大学及び校友会が年間行事として実施する祭事等に、浦水会代表者を派遣する。

7. 広報活動

会員相互間の連絡を密にすることを目的として広報活動を実施する。

(1) 浦水会本部発行物

① 新入会員対象の「会員のしおり」……年1回(平成30年1月発行予定)

② 全会員対象の「会報東洋」……年1回(平成29年12月発行予定)

③ 本部役員及び支部長対象の「浦水会ジャーナル」……年2回(平成29年4月・10月発行予定)

「会員のしおり」及び「会報東洋」の発送は、

大学の送付物に同封する。

④ 新会員(新入生のご父母)向けのリーフレット作成

リーフレットは、引き続き新入生向けとして作成する。「会員のしおり」「東洋」についても一般会員の活動参加の啓発と2部学生の保証人等の未加入者の勧誘を図るよう、に会員であることのメリットを強調するなど内容を工夫する。

浦水会の発行物と大学作成の「父母懇談会ガイドブック」との重複事項を省き、効率的な作成を行う。(140万円)

(2) 浦水会ホームページの充実

東洋大学ホームページとのリンクを確保して、大学と浦水会との情報の共有化を図ると共に、浦水会ホームページにおいて、各支部で行事計画及び報告を紹介するなど、支部内及び支部間の情報の共有化により、支部活動の活性化を図る。(100万円)

(3) キャンパスガイドの作成

学部別父母懇談会実施時等における各校舎の見学案内に供するため、大学全校舎(赤羽台校舎含む)の概要を記したパンフレットをリニューアルする。(40万円)

(4) 応援グッズの作製

大学の作製グッズを大学と協働で作製して、効率的な作製を図り、併せてコストの低減を図る。

配布基準を作成するなど会員間の平等性を確保する。(400万円)

8. 会員情報管理システム

浦水会本部では、大学の教務部門の情報を利用し、会費納入処理等を行っている。

会員情報管理システムは、平成26年度からは、卒業生・浦水会連携推進課に依頼することとなっている。また、支部要請の宛名ラベルを本部で作成提供できるようになっている。

情報の使用・管理については、「個人情報保護法」に基づき適切に管理されるよう、引き続き支部でのご協力をお願いする。

大学と「個人データの提供に伴う個人情報の

機密保持及び安全管理に関する契約書」を締結し、申請に基づき取り扱っている。なお、ホームページについては、大学側ホームページにリンクし、最新データを随時加えることによって、情報化を促進する。

9. 会員の満足度向上と帰属意識昂揚のための施策
本部で実施する諸行事への出席者に配布するグッズの内容は応援グッズに準ずる。(300万円)

支部事業関係

各支部が中心になって主催する行事等については「支部主催行事援助金」支給基準により、支援協力する。

(1) 支部総会

平成27年度より実施の大学主催の父母懇談会開催に伴い、関東地区以外の支部については、原則として支部総会開催は、大学主催の父母懇談会開催日と同日の同じ会場で実施する。(一部都合により父母懇談会と別日程で支部総会を開催せざるを得ない場合は、甫水会本部と相談のうえ別途支部において、別日程で支部総会を開催する場合がある。)

また、関東地区の支部については、従来通り支部総会は別途、別日程で独自で開催する。

(2) 就職説明(懇談)会

各支部において、独自で就職説明(懇談)会を計画した場合は、「甫水会支部関係業務等処理手順」に基づき、甫水会事務局へ申請書を提出する。支部からの開催要望に基づき、日程及び派遣者依頼願いについて大学側と調整し支部へ報告する。

(3) 大学施設設備校舎見学会

4 校舎の父母懇談会時及び本部主催事業「会員の集い・就職フォーラム」(白山校舎)の実施に際して、校舎見学を実施する。支部単位での個別の校舎見学についても受付けることとし、校舎案内者を派遣依頼要請する関係から、就職説明(懇談)会同様の手順で申請する。

平成29年度開設の赤羽台キャンパスについても、父母懇談会時等に実施できるように調整する。

(4) 講演・研修会等

講演・研修会等の講師について、本学教員等を講師として希望する場合、支部からの申請に基づき、本部にて関連の大学関係部署と調整のうえ派遣する。

甫水会収支関係

(1) 収入について

① 甫水会費5,000円については、「大学に委託徴収を依頼」している。

第1部の入学生及び在学生から徴収する。なお、留学生は除く。

第2部の入学生及び在学生は、任意加入として本部が徴収する。

② 雑収入については、学生総合補償制度の事務費収入等がある。

(2) 支出について

① 本部関連事業の主要行事である、支部総会、会員の集い・就職フォーラム、就職説明(懇談)会、会報発行等については大学と協働のうえ、予算を執行する。

② 支部関連事業の支部主催行事についても規程に準じて援助し、各支部の活性化を図る。

③ 学生協力費については、前年度通り本会の目的に基づき、大学祭、スポーツ大会、クラブ・サークル等の援助金を学生部と連携して交付する。

④ 人件費は、事業費関連事務に伴う人件費を労働契約書に基づき支出する。

⑤ 平成29年度新規施策事項については、必要な経費を計上した。

【管理費】

① 会議費は、各会議等に要する旅費交通費等である。

② 通信費、印写費、支払手数料、備品費等事務に要する費用を科目ごとに計上している。

平成29年度予算書

平成29年度予算は、理事会・評議員会に於いて、事業計画書と共に提出、報告されました。

一般会計収支予算書

自平成29年4月1日～至平成30年3月31日

(単位:千円)

収入の部		支出の部	
甫水会費収入	137,500	事業費	151,770
雑収入	786	管理費	25,532
投資活動収入	0	投資活動支出	3,000
前年度繰越金	83,638	予備費	1,500
		次期繰越収支差額	40,122
合計	221,924	合計	221,924

以上の説明、報告を受け「平成29年度一般会計予算書」については、審議の結果、承認されました。

【特定資産取得支出】

① 甫水会記念事業積立金は、甫水会60周年記念事業(平成31年度)に向けての準備積立金を2カ年計画で計上する。(300万円)

以上

③ 人件費は、事業費関連事務以外の事務に伴う人件費を労働契約書に基づき支出する。
④ 平成29年度新規施策事項については、必要な経費を計上した。
⑤ 予備費については、緊急支出として措置する。

平成29年度父母懇談会・支部総会報告

学部別父母懇談会参加者数

校 舎	学 部	申込会員数 (学生数)	参加者数	実施日
白 山	文 学 部	142	177	6/11(日)
	経 済 学 部	135	163	
	経 営 学 部	146	187	
	法 学 部	82	94	
	社 会 学 部	166	192	
	国 際 地 域 学 部	44	49	
	国 際 学 部	29	36	
	国 際 観 光 学 部	39	47	
川 越	理 工 学 部	233	315	6/11(日)
朝 霞	総 合 情 報 学 部	56	78	6/10(土)
板 倉	ライフデザイン学部	108	114	
赤羽台	生 命 科 学 部	72	109	6/10(土)
	食 環 境 科 学 部	76	97	
	情 報 連 携 学 部	102	161	6/18(日)
出 席 者 合 計		1,430	1,819	

*参加人数は複数参加者を含む

首都圏支部総会参加者数

支 部 名	会 員 数	*参 加 者	出席率(%)
茨 城	1,676	73	4.4
栃 木	777	41	5.3
群 馬	788	52	6.6
埼 北	485	34	7.0
埼 中	1,615	39	2.4
埼 東	1,416	20	1.4
埼 南	2,732	59	2.2
千 葉 東	1,861	69	3.7
千 葉 西	2,036	54	2.7
城 東	1,210	10	0.8
城 西	673	6	0.9
中 央	549	11	2.0
城 北	1,814	12	0.7
多 摩	1,836	22	1.2
神 奈 川	1,995	43	2.2
合 計	21,463	545	2.5

6月時点会員数

*参加者は受付名簿による

首都圏以外 41 支部

父母懇親会・支部総会（成績・履修出力数）

支部名	父母懇談会開催場所	会員数	父母懇談会 参加者数	申込会員数 (学生数)	支部総会 参加者数
札 幌・ 函 館	札 幌 市	160	32	18	19
旭 川		22			
北 見		33			
室 蘭		9			
釧 路		29			
釧 路	釧 路 市	55	7	5	7
青 森	青 森 市	107	15	10	13
岩 手	盛 岡 市	104	23	15	16
宮 城	仙 台 市	183	21	13	9
秋 田	秋 田 市	124	30	18	25
山 形	山 形 市	136	21	19	19
福 島	郡 山 市	411	36	18	21
新 潟	新 潟 市	731	102	37	51
富 山	富 山 市	138	19	14	10
石 川・ 福 井	金 沢 市	98	26	14	18
		38			
山 梨	甲 府 市	129	11	12	12
長 野	長 野 市	601	81	33	44
静 岡	静 岡 市	619	83	36	35
岐 阜	名 古 屋 市	62	11	7	8
愛 知		184	22	9	14
三 重		46	6	7	6
京 都・ 滋 賀		大 阪 市	38	2	2
	19				
阪 奈	大 阪 市	113	12	9	9
和 歌 山		16	5	3	5
兵 庫	姫 路 市	155	24	18	22
岡 山		36	4	3	3
鳥 取	米 子 市	25	7	5	9
島 根		21	8	5	6
広 島	広 島 市	100	23	18	19
山 口		40	9	8	8
徳 島	高 松 市	19	6	5	4
香 川		36	8	3	3
愛 媛	高 知 市	47	6	4	5
高 知		48	16	9	11
福 岡	福 岡 市	128	17	12	10
佐 賀		18	8	7	8
大 分		26	8	5	7
長 崎	長 崎 市	44	9	7	7
熊 本	鹿 児 島 市	69	14	12	13
鹿 児 島		33	9	8	9
宮 崎	宮 崎 市	37	16	12	14
沖 縄	那 覇 市	64	12	11	9
合 計		5,151	777	459	521

6月時点会員数

平成30年度 東洋大学父母懇談会及び雨水会支部総会実施スケジュール(案)

(支部からの変更希望調整)

平成29年度(当初)				
会場	開催県等	会場	月日	曜日
1	静岡県	○	6月24日	土
2	岐阜県		6月25日	日
	愛知県	○		
	三重県			
3	福島県	○	6月25日	日
4	兵庫県	○	7月1日	土
	岡山県			
5	阪奈	○	7月2日	日
	京都・滋賀			
	和歌山県			
6	新潟県	○	7月2日	日
7	熊本県		7月8日	土
	鹿児島県	○		
8	宮崎県	○	7月9日	日
9	島根県		7月9日	日
	鳥取県	○		
10	秋田県	○	7月15日	土
11	岩手県	○	7月16日	日
12	沖縄県	○	7月16日	日
13	富山県	○	7月22日	土
14	石川・福井	○	7月23日	日
15	長野県	○	7月22日	土
16	山形県	○	7月29日	土
17	宮城県	○	7月30日	日
18	山梨県	○	7月30日	日
19	愛媛県		8月5日	土
	高知県	○		
20	徳島県		8月6日	日
	香川県	○		
21	北海道釧路	○	8月6日	日
22	長崎県	○	8月19日	土
23	福岡県	○	8月20日	日
	大分県			
	佐賀県			
24	山口県		8月27日	日
	広島県	○		
25	北海道札幌・函館	○	8月27日	日
	北海道室蘭			
	北海道旭川			
	北海道北見			
26	青森県	○	8月27日	日

※移動が困難なため



平成30年度(案)				
会場	開催県等	会場	月日	曜日
1	岐阜県		6月30日	土
	愛知県	○		
	三重県			
2	静岡県	○	7月1日	日
3	福島県	○	7月1日	日
4	兵庫県	○	7月7日	土
	岡山県			
5	阪奈	○	7月8日	日
	京都・滋賀			
	和歌山県			
6	新潟県	○	7月8日	日
7	熊本県	●	7月14日	土
	鹿児島県			
8	宮崎県	○	7月15日	日
9	島根県	●	7月15日	日
	鳥取県			
10	秋田県	○	7月21日	土
11	北海道札幌・函館	○	7月22日	日
	北海道室蘭			
	北海道旭川			
	北海道北見			
12	沖縄県	○	7月22日	日
13	長野県	○	7月28日	土
14	石川・福井	○	7月28日	土
15	富山県	○	7月29日	日
16	徳島県	●	8月4日	土
	香川県			
17	愛媛県	●	8月5日	日
	高知県			
18	山梨県	○	8月5日	日
19	北海道釧路	○	8月5日	日
20	山形県	○	8月18日	土
21	宮城県	○	8月19日	日
22	長崎県	○	8月18日	土
23	福岡県	○	8月19日	日
	大分県			
	佐賀県			
24	岩手県	○	8月25日	土
25	青森県	○	8月26日	日
26	山口県	●	8月26日	日
	広島県			

※移動の合理性を考慮

平成30年度 実施スケジュール(案)	
時間	内容
12:30	受付開始
13:00	父母懇談会開始 【概要】 ・大学現況説明(30分) ・就職講演(50分) ・個別面談等(90分)
16:00	終了
16:15	雨水会支部総会開始
17:15	終了
17:30	雨水会支部総会懇親会開始
19:00	終了

※会場については、今年度の使用でサービスと利便性の観点から満足度の低い会場の見直しを行う。また支部長に希望するホテル(最大5つ)をお伺いして押さえる。今後は旅行会社数社に競争相見積もりを図っており、結果については纏まり次第理事会にて報告の予定。

平成二十九年 度 浦水会

「会員の集い・就職フォーラム」を開催して

東洋大学浦水会副会長 奥澤 敬子

親として子供の就活をどうサポートしたらよいのかを、この「会員の集い・就職フォーラム」に参加して頂いた浦水会会員の皆様に持ち帰って頂く事を最大の目的として、10月29日(日)に白山キャンパスにて開催。当日は、台風上陸で、悪天候にもかかわらず、北海道から沖縄まで、694名もの多くの会員の皆様にご出席をいただき、盛大に開催されました。誠にありがとうございました。

学生によるキャンパスツアーは、今年も人氣があり、10時半、11時半の2回だけではなく、何度か会員の方々が有る程度集まると、スタート。ユーモア溢れる学生による説明に熱心に聞き入っていました。その後、大学人氣ナンバーワンになった学生食堂で昼食、舌鼓を打った方も多かったのではないのでしょうか？ 今年には125記念ホールにて、理工学部教授が中心となり、民間企業と共同開発を進めている国産初のカヌー「水走」の特別展示があり、興味深く見入る会員の方々がいらつしやいました。

13時10分より、井上円了ホールが開場。東洋大学グループ・サウンズ・ジャズオーケストラの心地よい演奏で開演。13時35分より、午後の部が開会。北脇秀敏副学長から東洋大学の現況をふまえたご挨拶を頂きました。続いて、浦水会会長の阿部雅道氏より、浦水会

設立60周年を目前に、設立当初この会に込められた願い、期待された役割について確認しながら考え、会を運営している旨と、会員の皆様への日頃のお礼、会の活動報告がなされました。

就職フォーラムでは、第1部として、浦水会顧問の唐木重典氏より、「採用の立場、親の立場で考察する就活サポートのあり方」と題して、採用担当としての視点から講演して頂きました。親世代の就職と今は、全く異なりそれも絶えず変化している。昔は就職したらその企業に一生をそそぐつもりでいるのが美德と考えられたが、就職3年未満での離職率は、3割。会社の人気ランキングをあてにしない。何を機軸にするのかを決めることが重要で、家族は、社会への関心を広げ、興味の幅を明確化させるサポートを具体的実例等、話すことで教えてあげる。また、視点を変えるヒントを提供。大人の考え方をさりげなく伝える。等々、学ば事ばかりでした。皆様から頂いたアンケートにも、現状を分かりやすい例をあげて話して下さい、ほんやりとした不安が晴れた気がします。企業の面接官が見ているポイントを教えて下さり参考になりました。志望企業について、親の価値観で意見しないで、子供の意見を聞くのが大切だと分かりました。等、好評をいただきました。

第2部では、今年4月に就職した卒業生7名と浦水会員によるパネルディスカッション。一人暮らし、自宅通い、Uターン・Iターン、それぞれの環境で就職活動の経験談をふまえて話。就職・キャリア支援部をフルに活用した話、細かいタイムスケジュールを作成、出来たら線を引き達成感を自信に繋げた話、苦手な面接を友達と克服した話、就職活動は個人戦ではあるけれど、団体戦でもあり、情報収集を友達と一緒にしたという話、就職活動に交通費等、予想以上にお金がかかった話、親に望む事、やってほしくない事等々、大変参考になりました。反面、アンケートには、もっと生々しい話を聞きたい。不利と言われる学部の卒業生の話を聞きたい等のご意見も頂きましたので、次年度に活かしていきたいと思っています。

その後、初の会員の懇親会を地下食堂にて、約180名の参加を頂き盛大に開催。パネルディスカッション参加の卒業生に質問をする姿、他の支部の方々と楽しいそうに話をする姿、熱心に就職・キャリア支援部の方の話を聞く姿、色々な会員の姿を拝見できました。

今後とも浦水会は、学生が実りある学生生活を送れるよう、活動の充実を目指したいと思っています。引き続き、皆様のご支援ご協力、どうぞ宜しくお願い致します。

東洋大学甫水会

学生総合補償制度のご案内

(学生・こども総合保険団体契約)

中途加入
できます

学生生活が安心であるのには理由があります。

自転車事故、地震などの天災によるケガ等も補償
(傷害補償、個人賠償責任危険補償、育英費用補償、学資費用補償)

学生生活の中で起こる
こんなトラブルに対応できる
保険です!

お問い合わせ先:大東京保険サービス(株)

総合補償制度コンタクトセンター

0120-00-8426

[受付時間 平日9:00~17:00]

携帯電話・PHSなどをご利用の場合は下記の番号をご利用ください。

03-6912-0550

全タイプセット



課外活動を含めた
日常生活での
学生ご本人のケガへの備え

アルバイト
クラブ活動
のケガ

お支払い例(全タイプ共通)

飲食店でアルバイト中に誤って鍋をひっくり返し、学生本人が火傷を負い10日間入院した。

お支払保険金:50,000円
(入院保険金10日間×5,000円)(傷害補償)



扶養者が事故による
ケガで亡くなった場合の備え

扶養者
の万が一

お支払い例(A・B・C・F・G・Hの場合)

扶養者が交通事故により亡くなった。

お支払保険金:2,000,000円(一時金として)
(育英費用補償) ※タイプA、Fは4,000,000円

下宿生向けのみセット



慣れない借家での
一人暮らしで
発生する事故への備え

一人暮らし
の事故

お支払い例(タイプF・G・H・I・Jの場合)

借家で火災を起こしてしまい、借戸室と自分の家財が全焼した。

お支払保険金:3,800,000円
(生活用動産補償、借家人賠償責任補償)



自転車運転中を含む
日常生活における賠償責任への備え

全タイプセット

自転車
で事故

示談交渉サービス付き
(国内での賠償事故)

示談交渉サービスとは、被保険者であるお子さま、または親権者に代わって、被害者の方と賠償額の決定などの示談へ向けた交渉を行うサービスです。

お支払い例(全タイプ共通)

通学中に自転車で歩行者と接触し、相手が転倒。治療費や通院交通費などを弁済した。

お支払保険金:640,000円(個人賠償責任危険補償)

※上記事故例でも法律上の損害賠償責任が発生しない等、お支払いの対象とならないことがありますので、ご注意ください。



イブニングコース(第2部)については、甫水会への加入は任意加入となっております。上記お問い合わせ先までご連絡ください。学生総合補償制度に加入される場合は、別途甫水会への入会手続きが必要になります。

このチラシは概要を説明したものです。ご加入にあたっては必ずパンフレット(「2017年度東洋大学甫水会(父母会)の学生総合補償制度(学生・こども総合保険)」)および「重要事項のご説明 契約概要のご説明・注意喚起情報のご説明」をあわせてご覧ください。また、詳しくは「ご契約のしおり(普通保険約款・特約)」をご用意していますので、取扱代理店または引受保険会社までご請求ください。ご不明な点につきましては、取扱代理店または引受保険会社にお問合わせください。

【取扱幹事代理店】株式会社キャンパスサービス

【引受保険会社】あいおいニッセイ同和損害保険(株)、損害保険ジャパン日本興亜(株)

(2017年10月)B17-102550

イラスト制作:東洋大学第1部 漫画研究会

平成29年 東洋大学体育後援会だより

浦水会のみなさまには、日ごろから体育後援会および校友会の諸活動にご支援ご協力を賜っており厚くお礼を申し上げます。

平成29年度も、硬式野球部の東都大学春季1部リーグでの優勝、世界水泳選手権女子200メートル個人メドレーでの大橋悠依選手の銀メダル獲得などをはじめ、体育会各部の選手が各分野においてめざましい成績を収めています。極めつきは、9月9日の日本学生対校選手権男子100メートル決勝で、桐生祥秀選手が日本勢初の9秒台となる9秒98の日本記録を樹立したことで、日本列島を感動で震わせました。全国の新聞各社が第1面からスポーツ面まで大きく取り上げる一方、多くの社から号外も発行され、桐生選手が生出演する番組なども多くみられました。豪雨災害や北朝鮮のミサイル打ち上げなど暗いニュースが多かった世の中を明るくしてくれました。

2014年に東洋大学が文部科学省から大学の国際化を重点支援する「スーパーグローバル大学」に採択されたことはご承知の通りで、スポーツ各部の活躍だけにとどまらない、ハイレベルの文武両道大学として内外からも大きな注目が集まっています。

東洋大学体育後援会は、学生のスポーツ活動を支援するために、浦水会と校友会の共同で運営されてきておりますが、校友会は平成27年度から準会員費の大学

による代理徴収が途絶えたため、校友会としての体育後援会への拠出金が捻出できなくなりました。そのため、現在、全国61支部の支部総会や『校友会報』、校友大会などで広く会員に呼びかけて募金を集めております。本年度も機会あるごとに募金依頼を強力に呼びかけ、浦水会からの拠出金400万円に加え、校友会として募金400万円（目標）を集めるように努力いたしております。浦水会員のみなさまにも、一層の温かいご理解とご協力をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

体育後援会が、学生のスポーツ振興に対して役割を担い続けるためには、援助金の確保が必要になっていきます。体育後援会は、東洋大学のスポーツ活動が、教育活動の一環として今後も発展していくよう、これからも熱い支援を行ってまいりたいと思います。今後も学生たちが勉学に励むとともに、スポーツの分野でも目ざましい活躍を見せてくれることに大きな期待を寄せております。

なお、平成29年度の強化・準強化部と第一部体育会・第二部体育会・川越体育会の各部への援助金一覧は、下記のとおりです。

平成29年10月20日

東洋大学体育後援会・東洋大学校友会
会長 羽島知之

〈強化・準強化部〉

部 名	部員数	援助金額
硬式野球部	126	900,000
陸上競技部（長・短距離）	122	1,900,000
陸上競技部・女子長距離部門	38	50,000
アイススケート部（ホッケー・スピード・フィギュア）	55	250,000
レスリング部	46	100,000
空手道部	29	100,000
スキー部	29	150,000
相撲部	25	700,000
ボクシング部	30	100,000
サッカー部	63	150,000
サッカー部・女子部	34	40,000
水泳部	54	500,000
柔道部（準）	43	100,000
バスケットボール部（準）	57	30,000
計	751	5,070,000

〈2部体育会〉

部 名	部員数	援助金額
ワンダーフォーゲル部	11	40,000
バスケットボール部	20	60,000
陸上競技部	48	80,000
剣道部	32	60,000
合気道部	8	20,000
計	119	260,000

〈1部体育会〉

部 名	部員数	援助金額	部 名	部員数	援助金額
バレーボール部	13	40,000	ローバースカウト部	28	60,000
ソフトテニス部	35	60,000	パワーリフティング・ウェイトトレーニング部	5	20,000
卓球部	45	80,000	キックボクシング部	21	60,000
合気道部	14	40,000	射撃部	21	60,000
日本拳法部	15	40,000	ラククロス部	71	80,000
少林寺拳法部	23	60,000	ハンドボール部	20	60,000
準硬式野球部	71	80,000	應援指導部	10	40,000
バドミントン部	16	40,000	自転車愛好会	9	20,000
山岳部	17	40,000	計	434	880,000

〈川越体育会〉

部 名	部員数	援助金額	部 名	部員数	援助金額
アメリカンフットボール部	33	60,000	スキー部	22	60,000
弓道部	43	80,000	卓球部	14	40,000
剣道部	13	40,000	軟式庭球部	28	60,000
硬式庭球部	21	60,000	軟式野球部	59	80,000
ゴルフ部	21	60,000	バスケットボール部	23	60,000
サッカー部	39	60,000	バドミントン部	16	40,000
自転車部	11	40,000	バレーボール部	17	40,000
自動車部	33	60,000	ボディビル部	17	40,000
柔道部	7	20,000	ワンダーフォーゲル部	22	60,000
少林寺拳法部	9	20,000	計	448	980,000

※総援助金配分額 合計7,190,000

体育会強化部の活動予定

部 名	月 日	大 会
硬式野球部	4月～5月 6月	東都大学野球春季リーグ戦 全日本大学野球選手権大会
陸上競技部 (長距離部門・短距離部門・ 女子長距離部門)	1月2日～3日 5月 6月	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走 関東学生陸上競技対校選手権大会 日本学生陸上競技個人選手権
アイススケート部 (ホッケー部門・フィギュア部門・ スピード部門)	1月 4月 6月	日本学生氷上競技選手権大会 関東大学アイスホッケー選手権大会 関東学生フリースケーティング選手権大会
レスリング部	5月 6月	東日本学生リーグ戦 東日本学生選手権・東日本学生女子選手権
空手道部	5月 5月	東日本大学空手道選手権大会 関東学生空手道個人選手権大会
スキー部 (アルペン・ジャンプ・ランナー)	2月～3月	全日本学生スキー選手権大会
相撲部	4月 5月 5月 5月 5月 6月	全日本大学選抜相撲宇和島大会 全国大学選抜相撲宇佐大会 全国選抜大学・社会人対抗相撲九州大会 東日本学生相撲新人選手権大会 全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会 東日本学生相撲選手権大会
ボクシング部	4月～6月	関東大学ボクシングリーグ戦
サッカー部	4月～6月	関東大学サッカーリーグ戦
サッカー部女子部門	4月～	関東女子サッカーリーグ
水泳部	4月 5月	日本選手権水泳競技大会 ジャパンオープン (50m)



水泳インカレ 4×200mフリーリレー優勝



第96回東日本学生相撲選手権 団体戦優勝

★東洋大学父母ホットライン

(ご父母を含む保証人各位に対する電話相談窓口)

東洋大学では、大学としてのご父母含む保証人各位に対するホットライン（電話相談窓口）を開設しています。学生各位に関することで保証人各位が、大学のどこの部署に相談したらよいかわからない等、お困りのことがございましたら、この相談窓口まで、電話にてお問合せください。

なお、このホットラインは、雨水会事務室設置のホットラインと兼用となっております。

電話番号：03-3945-7883

受付時間：9：30～16：30（月曜日～金曜日）

※大学へのご連絡に際して

授業運営や事務手続きに関する質問等につきましては、学生各位が関連窓口へ直接申し出ていただくようお願いしています。学生各位の自主性を尊重し、学修を実質化する意味において、保証人各位におかれましても学生各位にご助言いただきますようお願い申し上げます。

「箱根駅伝で優勝させる会」入会のお願い

東洋大学陸上競技部（長距離部門）を箱根駅伝で優勝させるために同部の育成、強化と会員相互の親睦を図ることを目的としており、これを達成するために必要な援助、事業を行うものであります。つきましては、本会の趣旨にご賛同いただき、是非、会員としてご入会いただきご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

1. 会費：原則として年間 10,000 円以上
2. 郵便振替口座 口座番号 00190-2-187937 番
口座名称 箱根駅伝で優勝させる会
3. お問合せ先：白山キャンパス 学生部内「箱根駅伝で優勝させる会」事務局
TEL：03-3945-7270

東洋大学雨水会報「東洋」通巻一五七
発行日 平成29年12月15日
発行人 雨水会会長 阿部 雅道
発行所 東洋大学雨水会
東京都文京区白山5-28-20
郵便番号 112-8606 8号館中2階
電話 (03) 3945-0123
FAX (03) 3942-7612
印刷所 東銀座印刷出版株式会社



グルービーサウンズ・ジャズオーケストラ

甬水会からのお願い 保証人住所変更手続きについて

転居等により保証人住所・電話番号を変更される場合には、ご子女に東洋大学ホームページサイト『ToyoNet-G』（とよねっとジー）で変更手続きを行うようにお伝え下さい。

この手続きで「父母懇談会」・「支部総会」・「会員の集い・就職フォーラム」・「会報 東洋」等、甬水会 及び 会員の皆様が所属する支部からのすべての送付物のあて先に反映されます。

なお、甬水会では、電話・FAX・メール等による変更手続きは受け付けられませんので、ご了承のほどお願い申し上げます。

教務担当窓口への提出 もしくは『ToyoNet-G』 からの変更をお願い致します。



ウォルシュ選手 400m 優勝（インカレ）



桐生選手 100 m 優勝（インカレ）



津波選手 走幅跳優勝（インカレ）

東洋大学雨水会

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 (8号館中2階)

TEL.03-3945-0123 FAX.03-3942-7612

メールアドレス hosui@toyo.jp

発行日 平成29年12月15日 編集・発行 東洋大学雨水会